

宇治田原町男女共同参画計画策定にかかる
アンケート報告書

平成22年2月

宇治田原町

〈目次〉

I	調査の概要	1
II	調査の結果	3
1	基本的事項	4
	(1) 性別	4
	(2) 年齢	4
	(3) 居住地域	5
	(4) 既婚・未婚	5
	(5) 家族形態	6
	(6) 職業	6
	(7) 共働きの状況	7
2	男女平等に関する意識について	8
3	結婚や職業など生活全般について	23
	(1) 結婚についての考え方	23
	(2) 晩婚化の理由についての考え方	24
	(3) 離婚についての考え方	26
	(4) 職業・職場における男女間不平等など	27
	(5) 結婚・出産後の就労・退職についての満足度	28
	(6) 女性が職業をもつことについて	29
	(7) 家庭における家事の分担	30
4	人権について	35
	(1) セクシャル・ハラスメントの経験など	35
	(2) セクシャル・ハラスメントが起こる主な理由	37
	(3) ドメスティック・バイオレンスの経験など	38
	(4) 女性の人権を守るために必要なこと	40
5	男女共同参画のまちづくりについて	42
	(1) 審議会等の委員への就任を依頼された時の対応	42
	(2) 宇治田原町のまちづくりに女性の意見が反映されているか	43
	(3) 男女共同参画社会をつくるため行政がすべきこと	44
	(4) 男女共同参画社会をつくるため自分や企業がすべきこと	46
6	自由意見	48
III	アンケート用紙	51

I 調査の概要

1 調査の目的

男女が共に参画できるまちづくりをめざすため「宇治田原町男女共同参画計画」を策定するにあたって、男女共同参画社会に対する住民の現状や意識、ニーズ等を把握し、計画に反映するため無作為に選んだ500人の住民を対象にアンケート調査を実施したものです。

2 調査の方法

- (1) 調査対象
20歳以上の住民から500人を無作為抽出
- (2) 調査方法
郵送による配布、回収
- (3) 調査期間
平成21年12月1日～平成22年1月15日

3 回収状況

標本数	500件
有効回収数	242件
有効回収率	48.4%

本調査報告書では、一部の分析において内閣府男女共同参画局が平成19年、平成21年に行った全国の世論調査結果と比較をしています。

〈全国調査の実施概要〉

- 調査対象 全国20歳以上の者
- 標本数 5,000人
- 調査時期 平成19年：平成19年7月26日～8月12日
平成21年：平成21年10月1日～10月18日
- 調査方法 調査員による個別面接聴取
- 有効回答数 平成19年：3,118人
平成21年：3,240人
- 有効回収率 平成19年：62.4%
平成21年：64.8%

※ 留意事項：回答結果は小数点第二位以下を四捨五入しています。このため単数回答においては内訳の合計値が99.0になるなど100.0にならない場合があります。

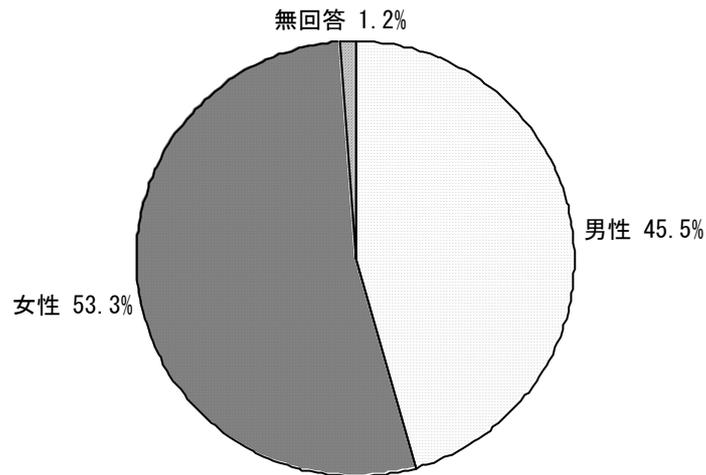
Ⅱ 調査の結果

1 基本的事項

(1) 性別

問1 あなたの性別は。

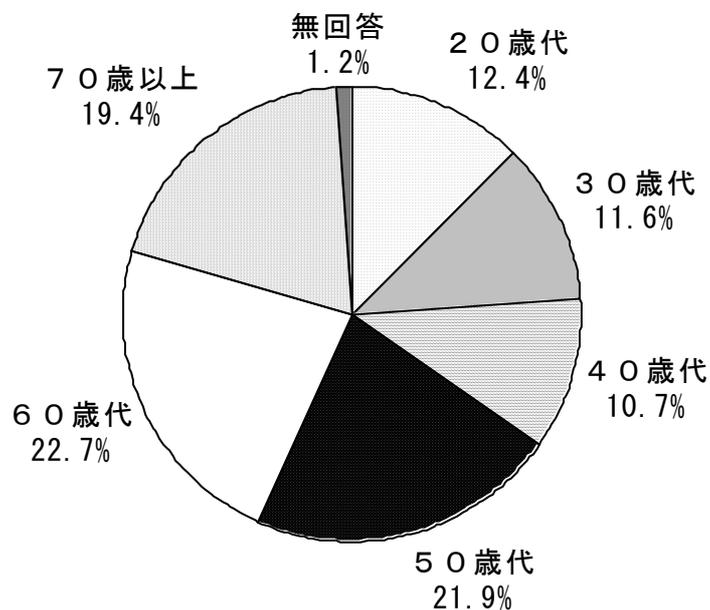
男性が45.5%、女性が53.3%となっています。



(2) 年齢

問2 あなたの年齢は。

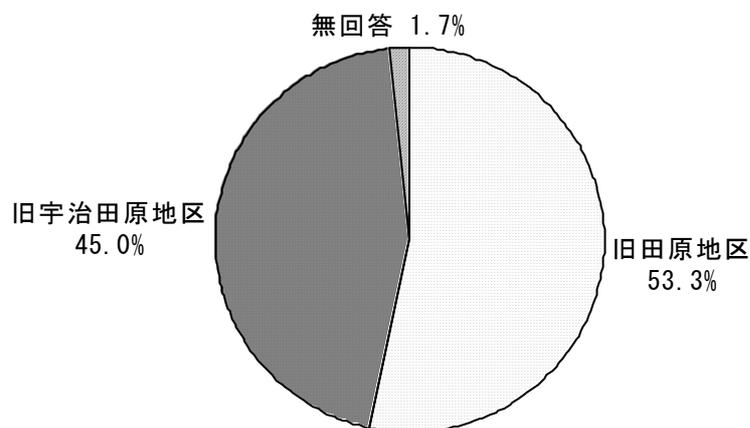
20歳代が12.4%、30歳代が11.6%、40歳代が10.7%、50歳代が21.9%、60歳代が22.7%、70歳以上が19.4%となっています。



(3) 居住地

問3 あなたのお住まいはどちらですか。

旧田原地域が53.3%、旧宇治田原地域が45.0%となっています。

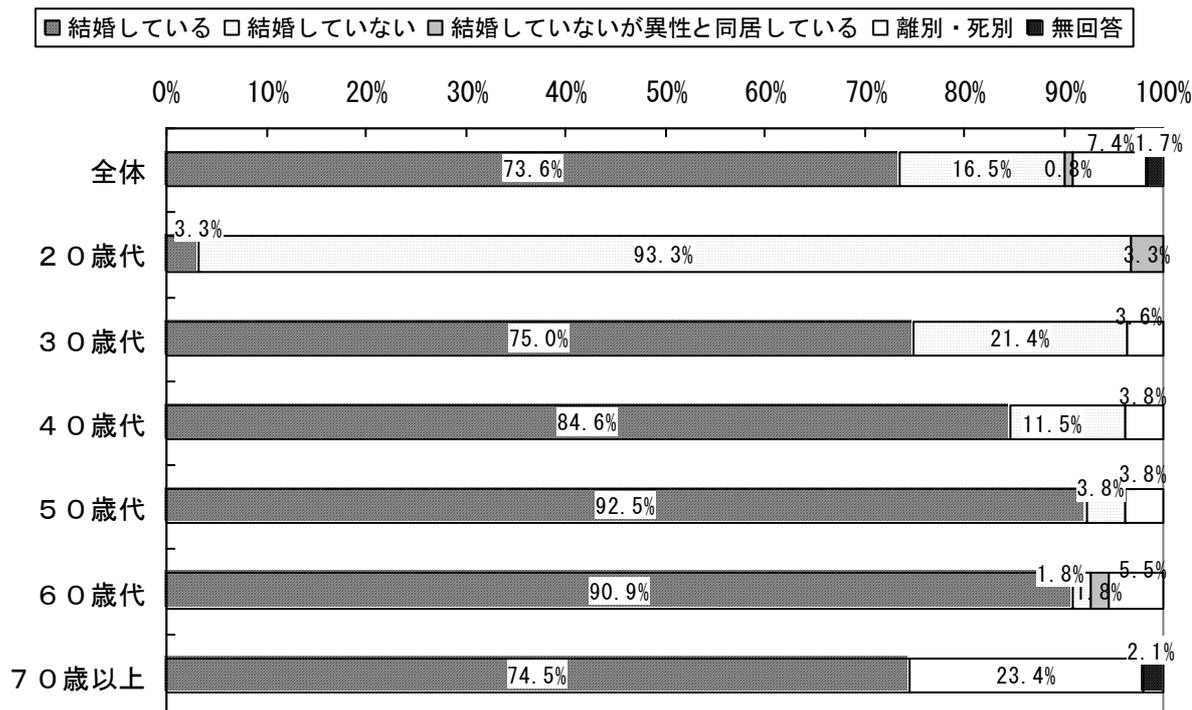


(4) 既婚・未婚

問4 あなたは結婚されていますか。

「結婚している」が73.6%、「離別・死別」が7.4%、「結婚していない」が16.5%となっています。

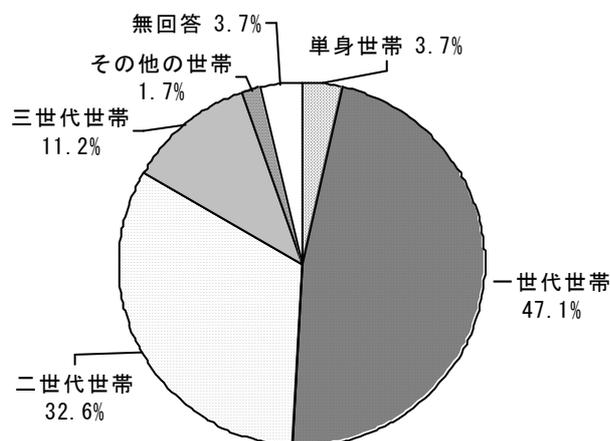
年齢別では20歳代で「結婚している」の割合が最も小さく、30～60歳代で大きくなっています。また、70歳代以上では「離別・死別」の割合が大きくなっています。



(5) 家族形態

問5 あなたと一緒に暮らしているご家族は

単身世帯（ひとり暮らし）が3.7%、一世代世帯（夫婦だけ）が47.1%、二世帯世帯（親と子ども）が32.6%、三世帯世帯（親と子と孫）が11.2%などとなっています。

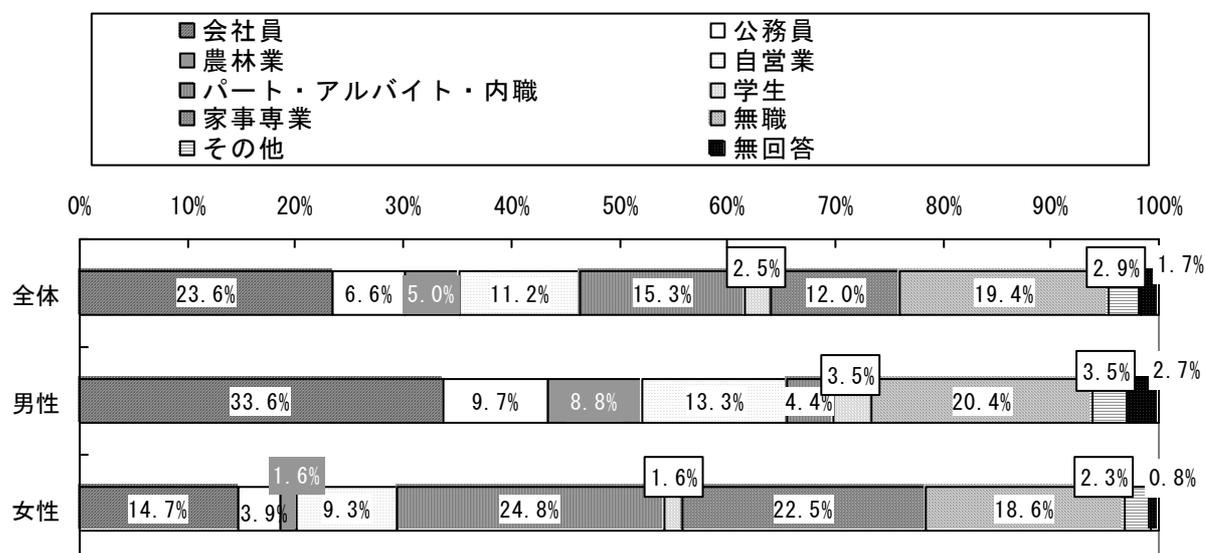


(6) 職業

問6 あなたの職業は。(2つ以上の職業をおもちの場合は、主たる職業を1つだけ選んでください。なお、出産・育児・介護などで休暇中の場合は、働いているものとして回答してください。)

「会社員」が23.6%、「公務員」が6.6%、「農林業」が5.0%、「自営業」が11.2%、「パート・アルバイト・内職」が15.3%、「学生」が2.5%、「家事専業」が12.0%、「無職」が19.4%などとなっています。

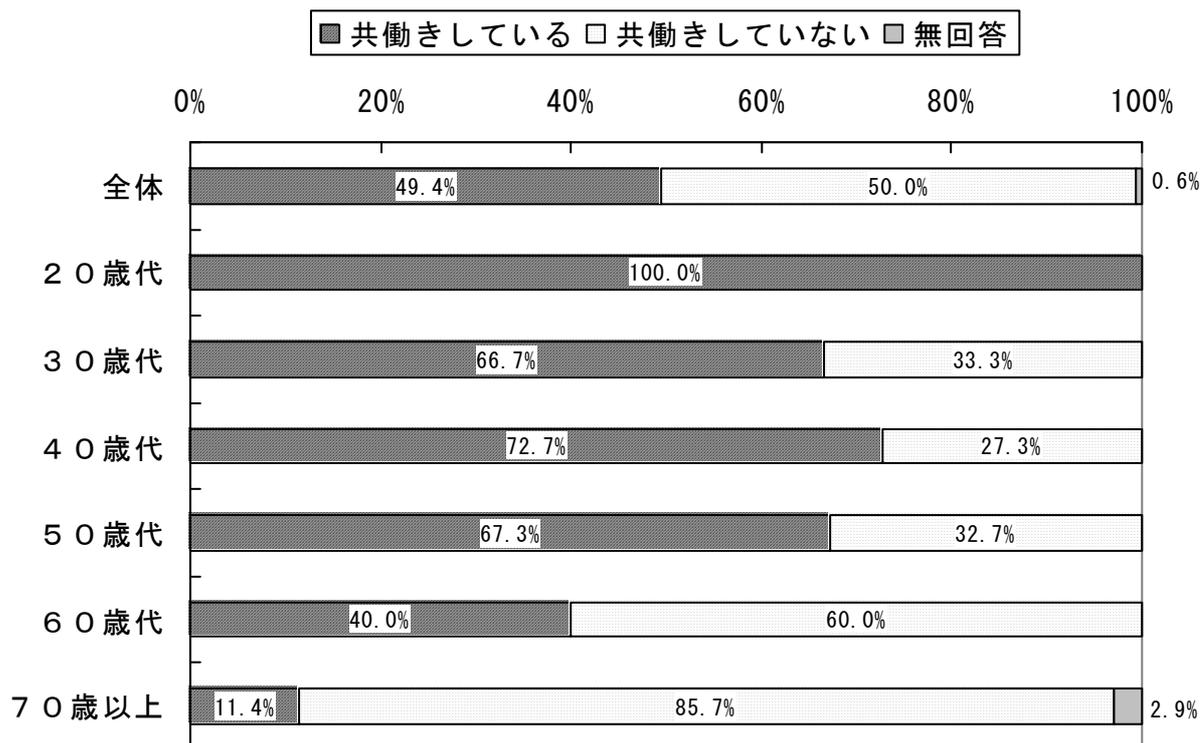
性別では、男性で「会社員」が33.6%と多く、女性で「パート・アルバイト・内職」が24.8%、「家事専業」が22.5%と多くなっています。



(7) 共働きの状況

問7 (結婚されている方におたずねします。) あなたのご夫婦は共働きをしていますか。

「共働きしている」が49.4%、「共働きしていない」が50.0%となっています。
年代別に見ると、20歳代では100.0%、30～50歳代では6～7割の方が共働きをしています。



2 男女平等に関する意識について

問8 男女平等は憲法で保障されていますが、現在、日本の社会において男女の地位は、どの程度平等になっていると思いますか。それぞれの項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。

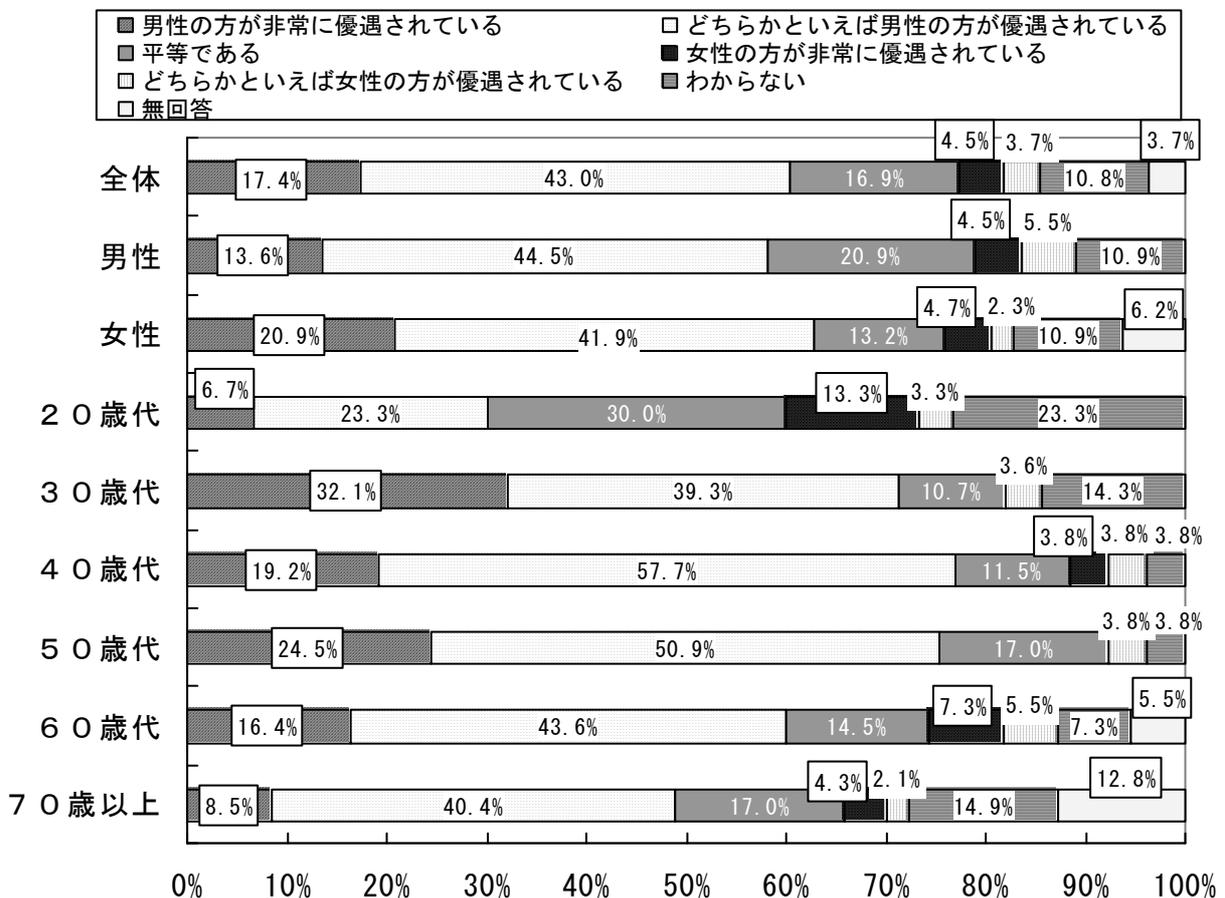
① 家庭生活（家事・育児・介護面など）では

「家庭生活」において男性優遇の意識が全体的に高く、平等意識は低い。女性や30～50歳代ではこの傾向が特に強い。宇治田原町は全国よりも平等意識は低い。

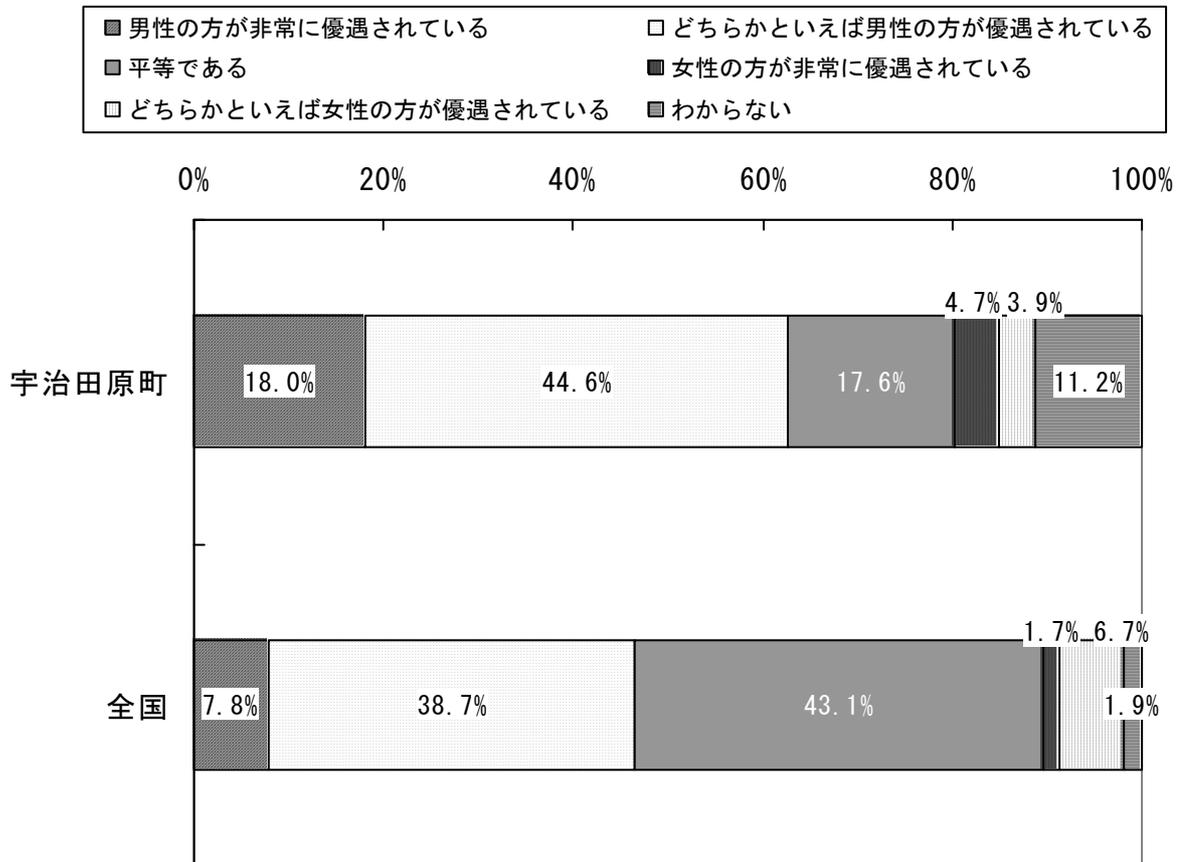
家庭生活全般においては「男性の方が非常に優遇されている」が17.4%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が43.0%で、合わせて60.4%が男性の方が優遇されていると感じています。その一方で「平等である」は16.9%に留まっています。

性別でみると「男性の方が非常に優遇されている」は男性13.6%、女性20.9%と、女性が7.3ポイント高く、「平等である」は男性で20.9%、女性13.2%と、男性が7.7ポイント高くなっています。

年齢別にみると「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は特に30～50歳代で高くなっており、70歳以上で低くなっています。



この結果を全国調査（平成21年）と比較すると宇治田原町は「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計では全国に比べ高く、その一方で、「平等である」は全国に比べて低い結果となっています。（宇治田原町の値は全国調査にあわせて、無回答分を除いたうえで再集計したものの。）



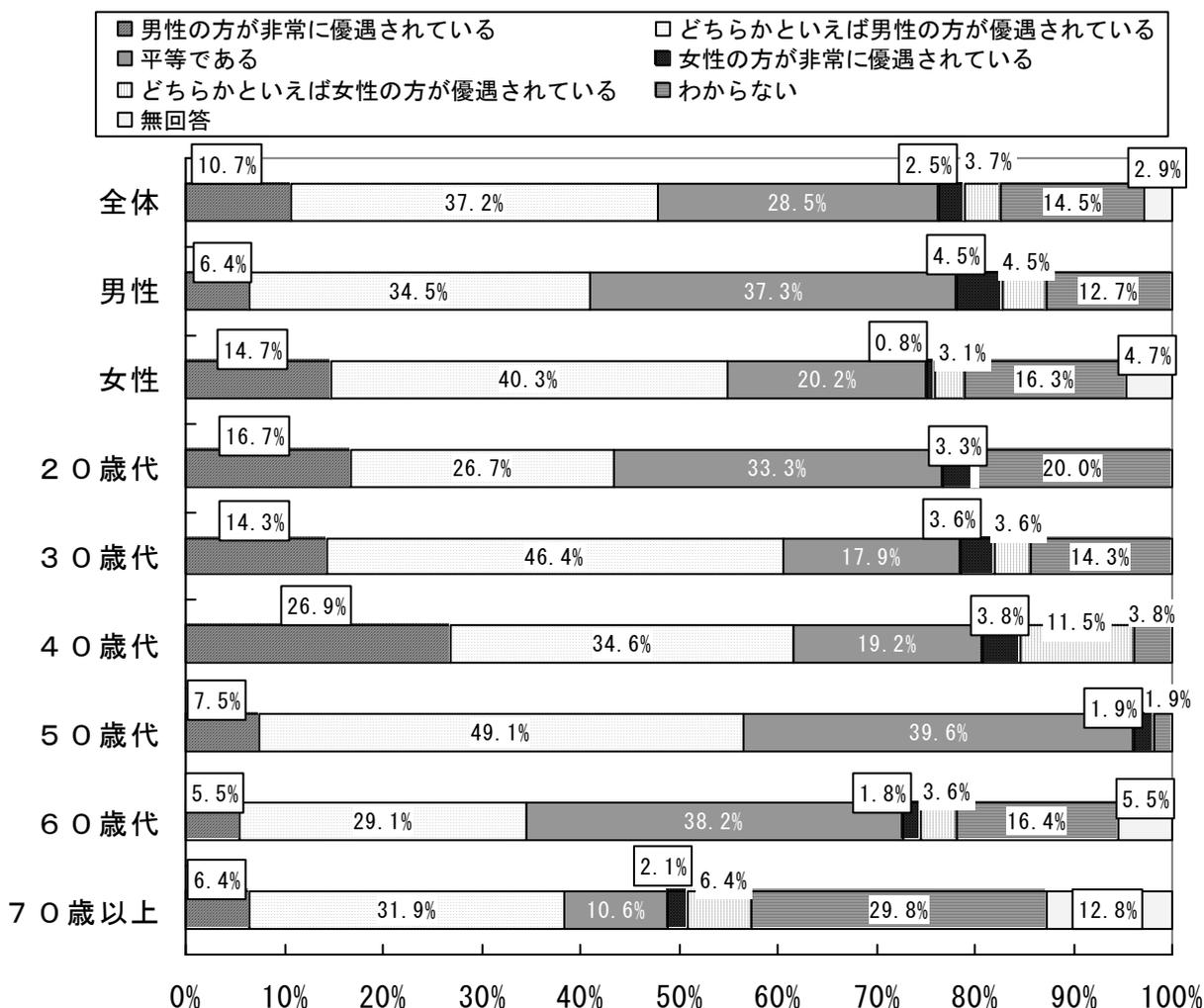
② 職場では

「職場」において全国に比べ平等の意識は若干高い。その一方で、女性においては男性優遇の意識が高い。この傾向は30～50歳代で特に強い。

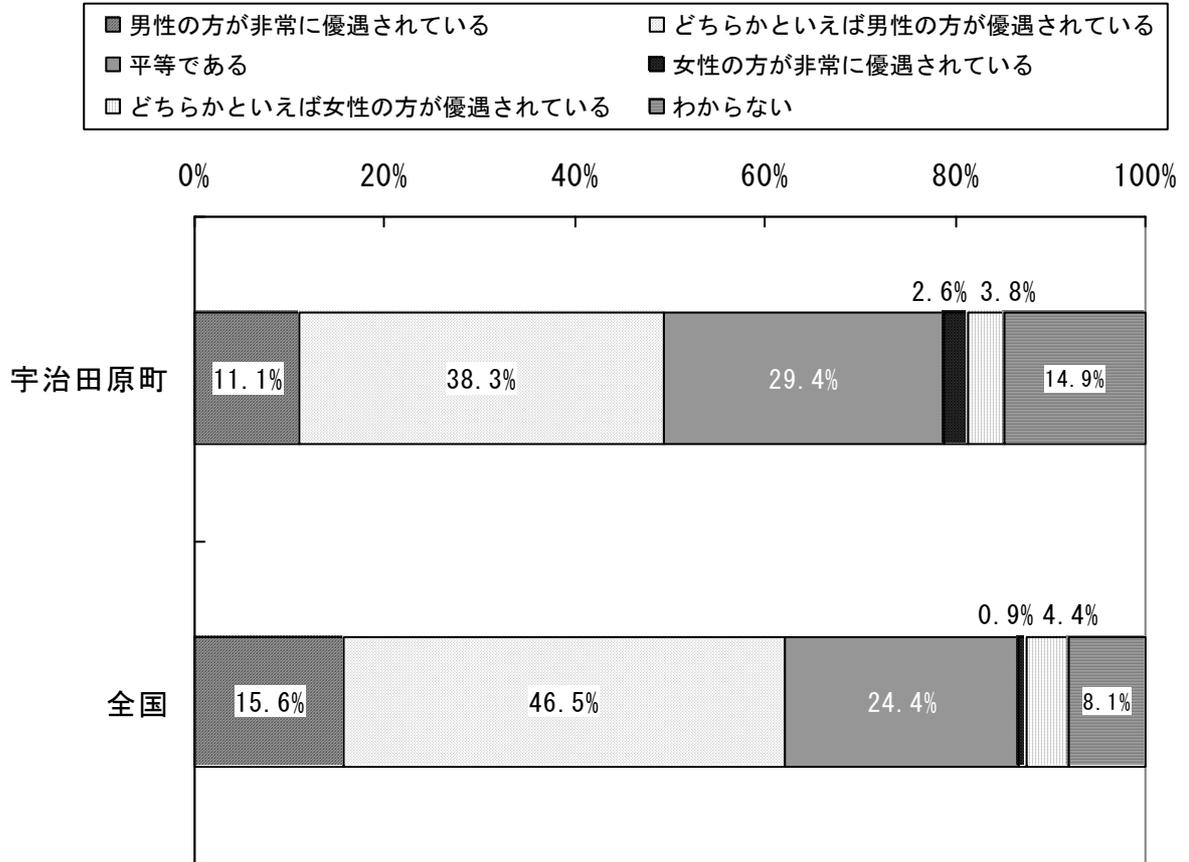
職場においては「男性の方が非常に優遇されている」が10.7%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が37.2%で、合わせて47.9%が男性の方が優遇されていると感じています。「平等である」は28.5%に留まっています。

性別でみると「男性の方が非常に優遇されている」は、男性6.4%、女性14.7%と女性が8.3ポイント高く、「平等である」は男性で37.3%、女性20.2%と、男性が17.1ポイント高くなっています。

年齢別にみると、30～50歳代で「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、特に高くなっています。



この結果を全国調査（平成21年）と比較すると、宇治田原町は「男性の方が非常に優遇されている」では全国に比べ低く、その一方で、「平等である」が全国に比べ高い結果となっています。（宇治田原町の値は全国調査にあわせ、無回答分を除いたうえで、再集計したものの。）



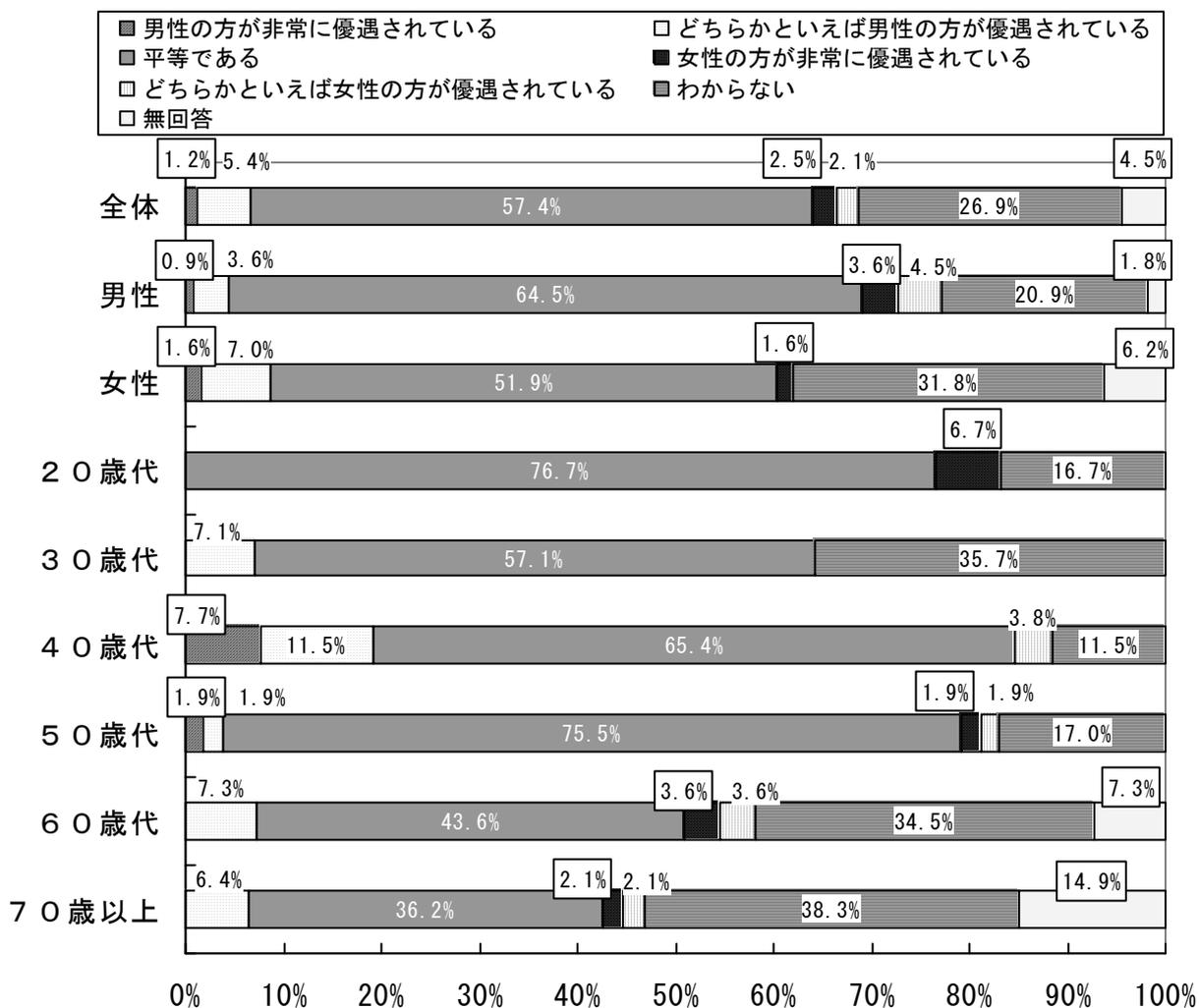
③ 学校教育の場では

「学校教育」において全国の傾向に類似して、平等意識が全体的に高い。

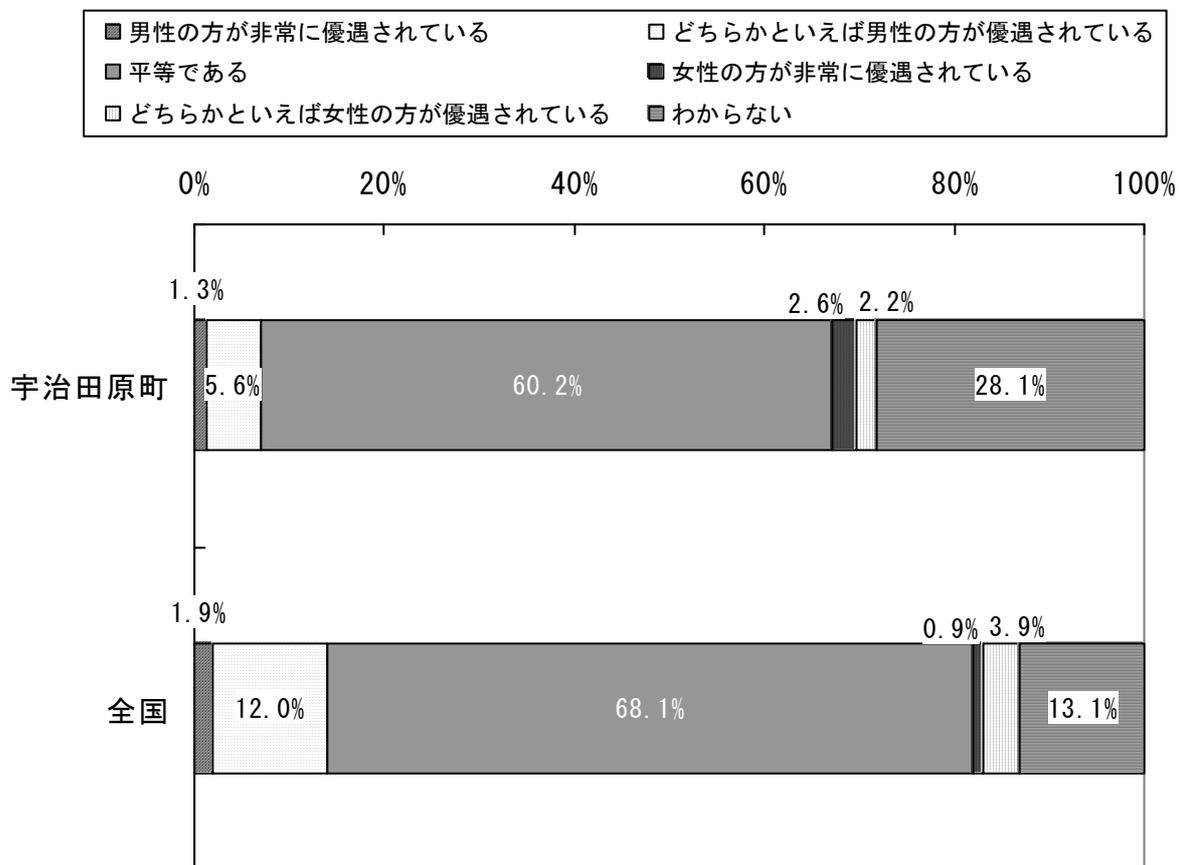
学校教育の場においては「平等である」が57.4%で、他の調査事項に比べ平等意識は高くなっています。

性別でみると「平等である」は男性64.5%、女性51.9%で男性が12.6ポイント高くなっています。その一方で「わからない」は男性20.9%、女性31.8%で女性が男性より10.9ポイント高くなっています。

年齢別でみると40歳代で「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が最も高くなっています。



この結果を全国調査（平成21年）と比較すると、宇治田原町は「平等である」が低く、男性・女性のどちらが優遇されているかについては全国との差は、あまり見られない結果となっています。（宇治田原町の値は全国調査にあわせ、無回答分を除いたうえで、再集計したものの。）



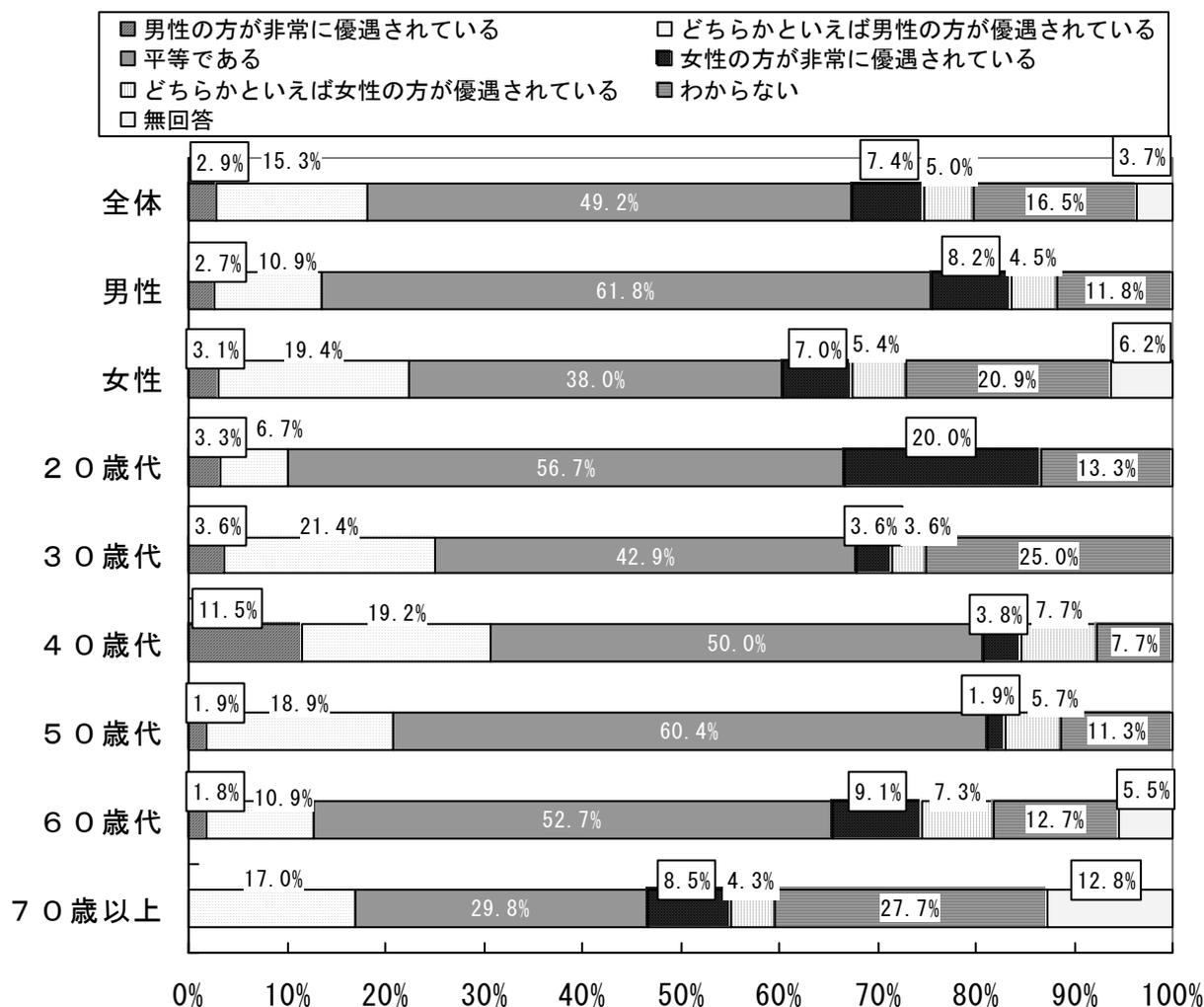
④ 地域活動の場(自治会・ボランティア活動など)では

「地域活動」における平等意識は高いが、女性は男性に比べ平等意識は低い。

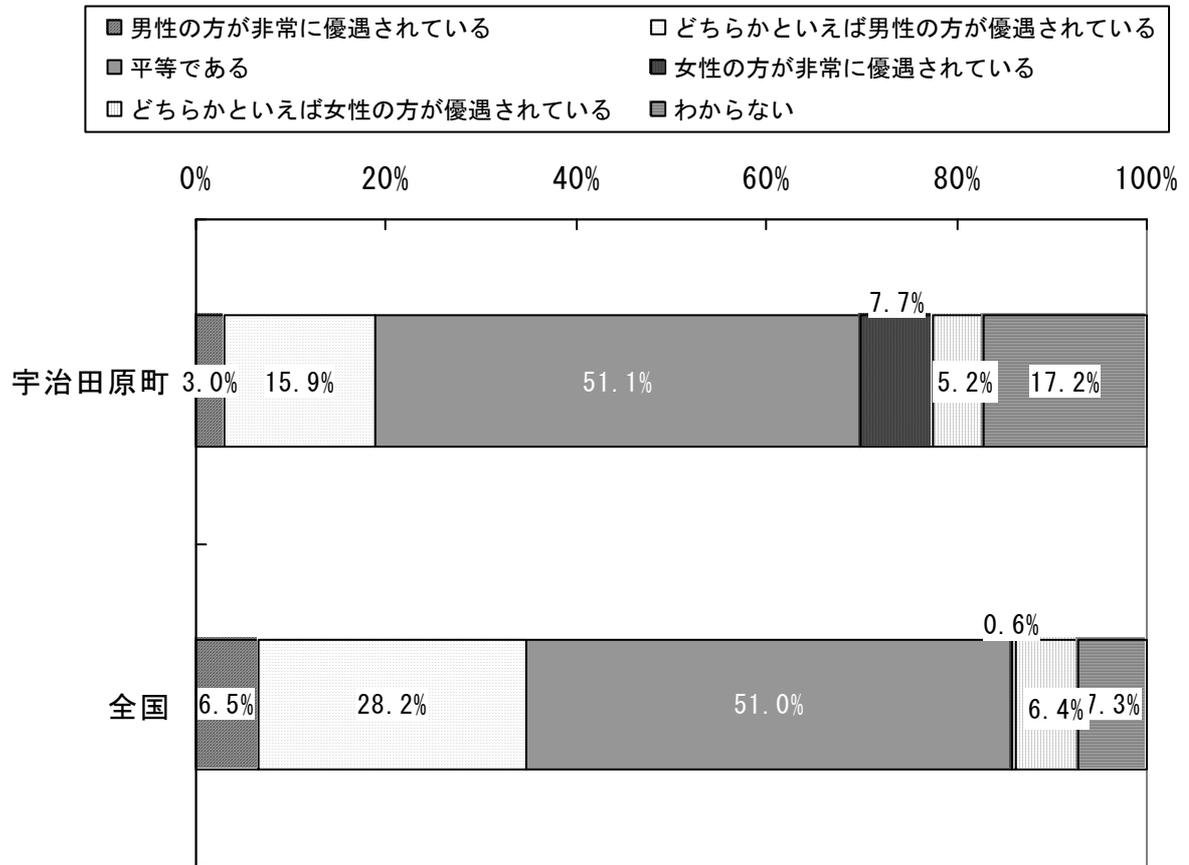
地域活動の場においては、「男性の方が非常に優遇されている」2.9%、「女性の方が非常に優遇されている」7.4%で「女性の方が非常に優遇されている」が4.5%上回っていますが、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計18.2%と「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計12.4%では、男性の方が優遇されていると感じている結果が若干高くなっています。また「平等である」は49.2%となっています。

性別でみると「平等である」は男性61.8%、女性38.0%で男性が23.8ポイント高くなっています。

年齢別にみると40歳代で「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が高くなっています。



この結果を全国調査（平成21年）と比較すると、宇治田原町は「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が全国と比べると低い結果となっていますが、「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が、全国と比べると高い結果となっています。（宇治田原町の値は全国調査にあわせ、無回答分を除いたうえで、再集計したものの。）



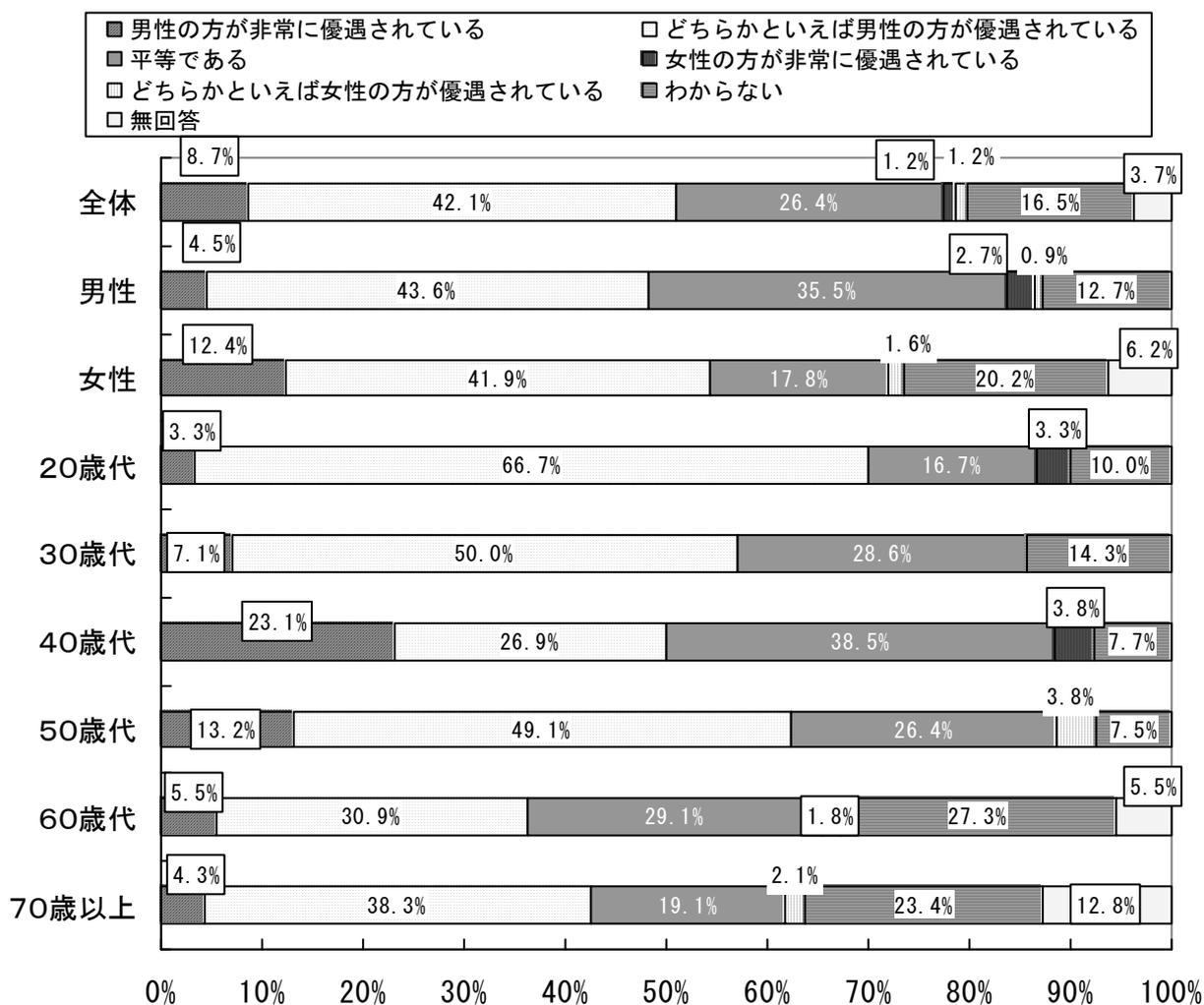
⑤ 政治や行政の政策・方針決定の場では

「政治や行政の施策・方針決定の場」において男性優遇の意識が全体的に高く、平等意識は低い。女性や20～50歳代ではこの傾向が強い。ただし、全国と比べると男性優遇の意識は低い傾向にある。

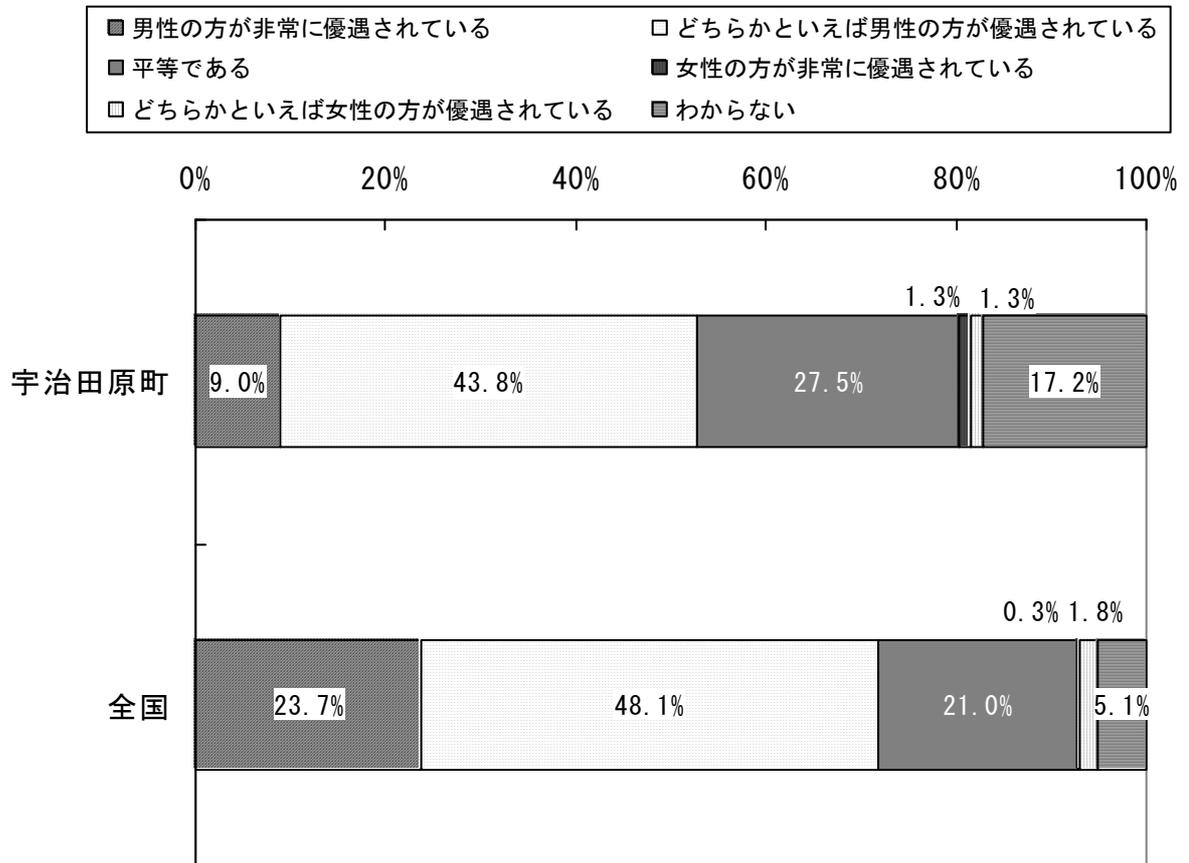
政治や行政の政策・方針決定の場においては「男性の方が非常に優遇されている」8.7%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」42.1%で、合計50.8%が男性の方が優遇されていると感じています。その一方で「平等である」は26.4%に留まっています。

性別でみると「男性の方が非常に優遇されている」は男性4.5%に対し、女性12.4%と女性が7.9ポイント高くなっています。その一方で「平等である」は男性で35.5%に対し、女性17.8%と男性が17.7ポイント高くなっています。

年齢別でみると「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、20～50歳代で高くなっており、60歳以上で低くなっています。



この結果を全国調査（平成21年）と比較すると、宇治田原町は「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」では全国と比べると低くなっています。（宇治田原町の値は全国調査にあわせ、無回答分を除いたうえで、再集計したものの。）



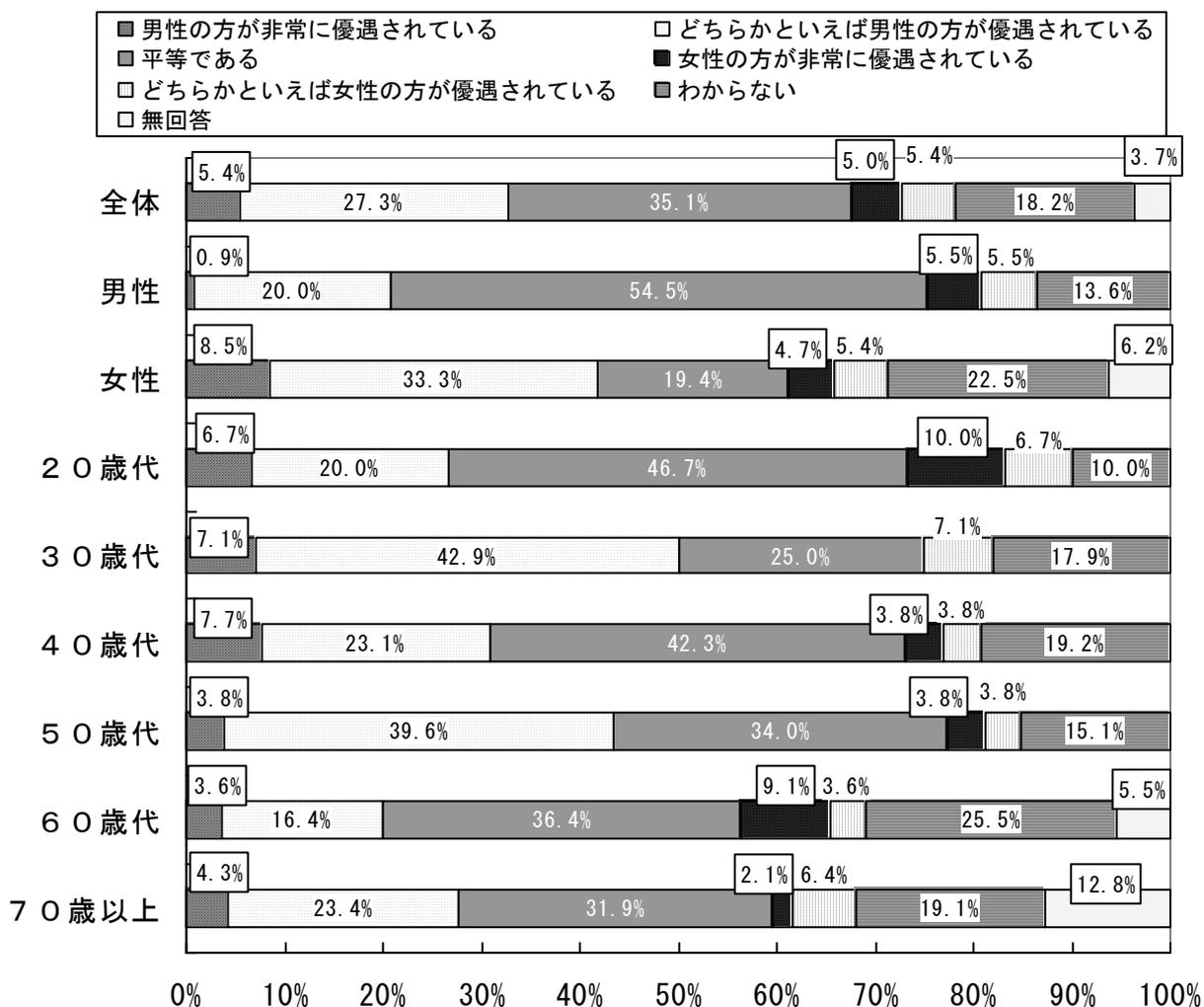
⑥ 法律や制度の上では

「法律や制度」において男性優遇の意識と平等の意識はほぼ同じ割合となっているが、女性は男性に比べ平等意識が極めて低い。全国と比べると男性優遇の意識は低い傾向にある。

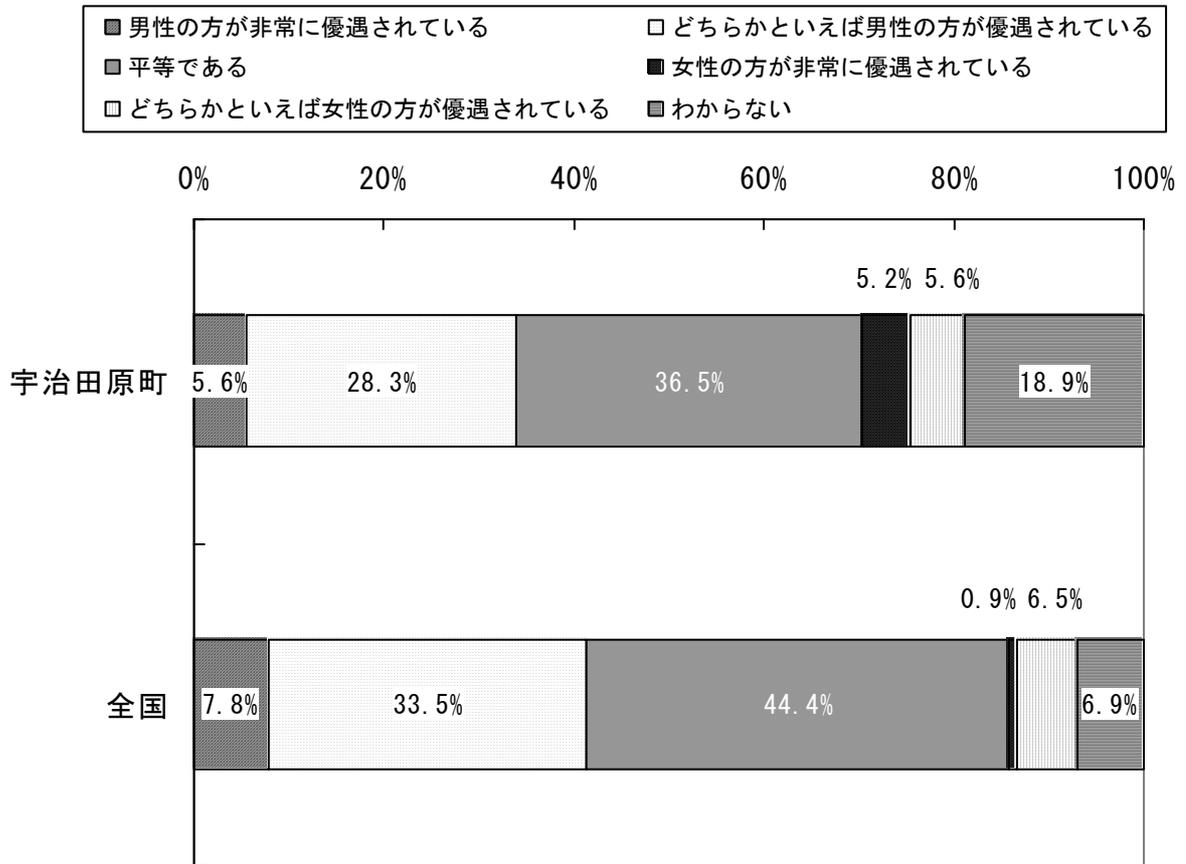
法律や制度の上では、「男性の方が非常に優遇されている」が5.4%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が27.3%で、合わせて32.7%が男性の方が優遇されていると感じており、「平等である」35.1%とほぼ同じ割合となっています。

性別でみると「平等である」は男性54.5%に対し、女性19.4%と、男性が35.1%高くなっています。また「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は男性20.9%に対し、女性41.8%と女性が20.9ポイント高くなっています。

年齢別にみると「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は30歳代で最も高く、60歳代で最も低くなっています。



この結果を全国調査（平成 21 年）と比較すると、宇治田原町は「平等である」は全国に比べ低く、その一方で「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は全国に比べ低い結果となっています。（宇治田原町の値は全国調査にあわせ、無回答分を除いたうえで、再集計したものの。）



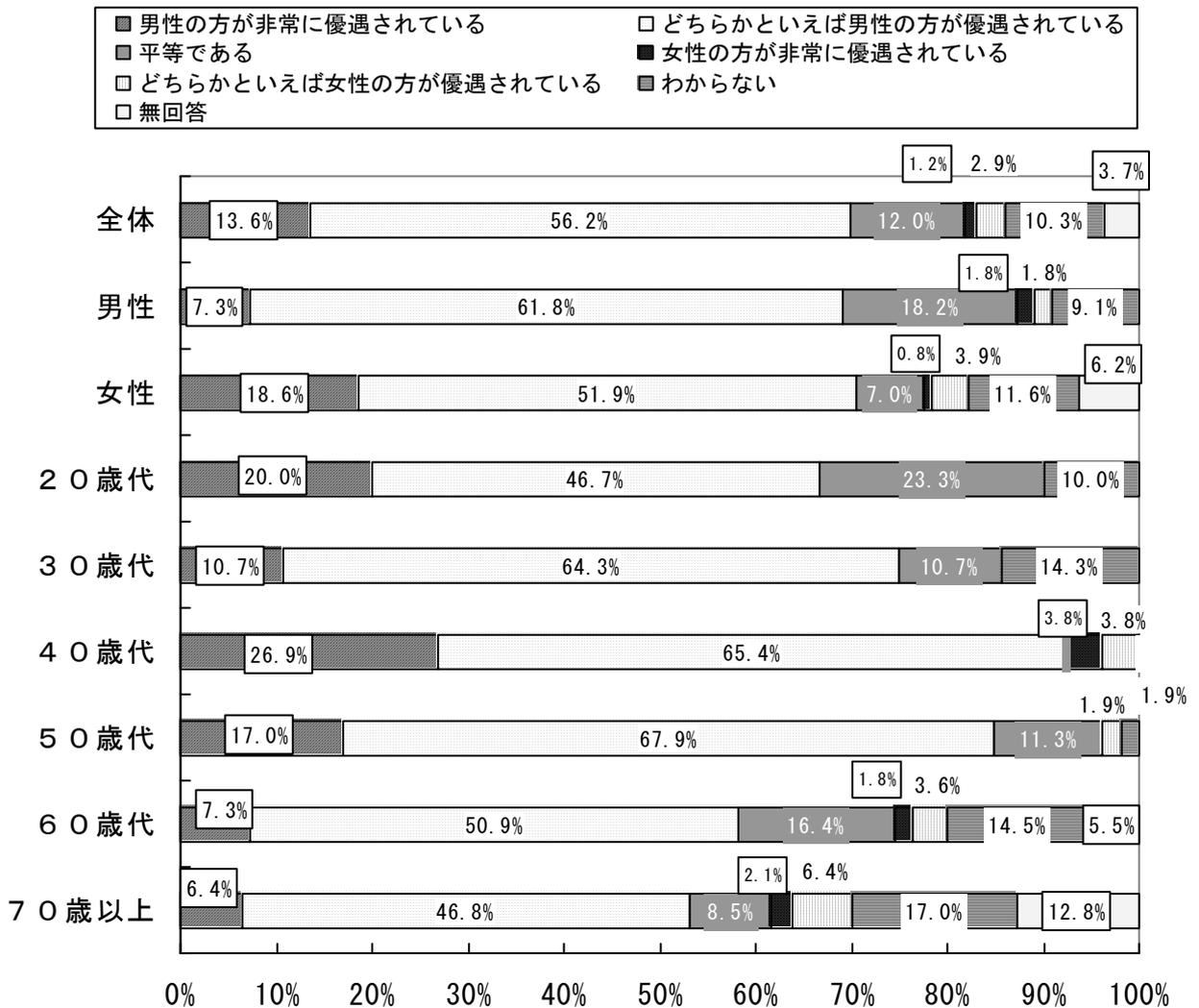
⑦ 社会通念や慣習・しきたりなどでは

「社会通念や慣習・しきたりなど」において男性優遇の意識が極めて高く、平等の意識は低い。特に女性ではその傾向が強い。また全国と比べても平等の意識は低い傾向にある。

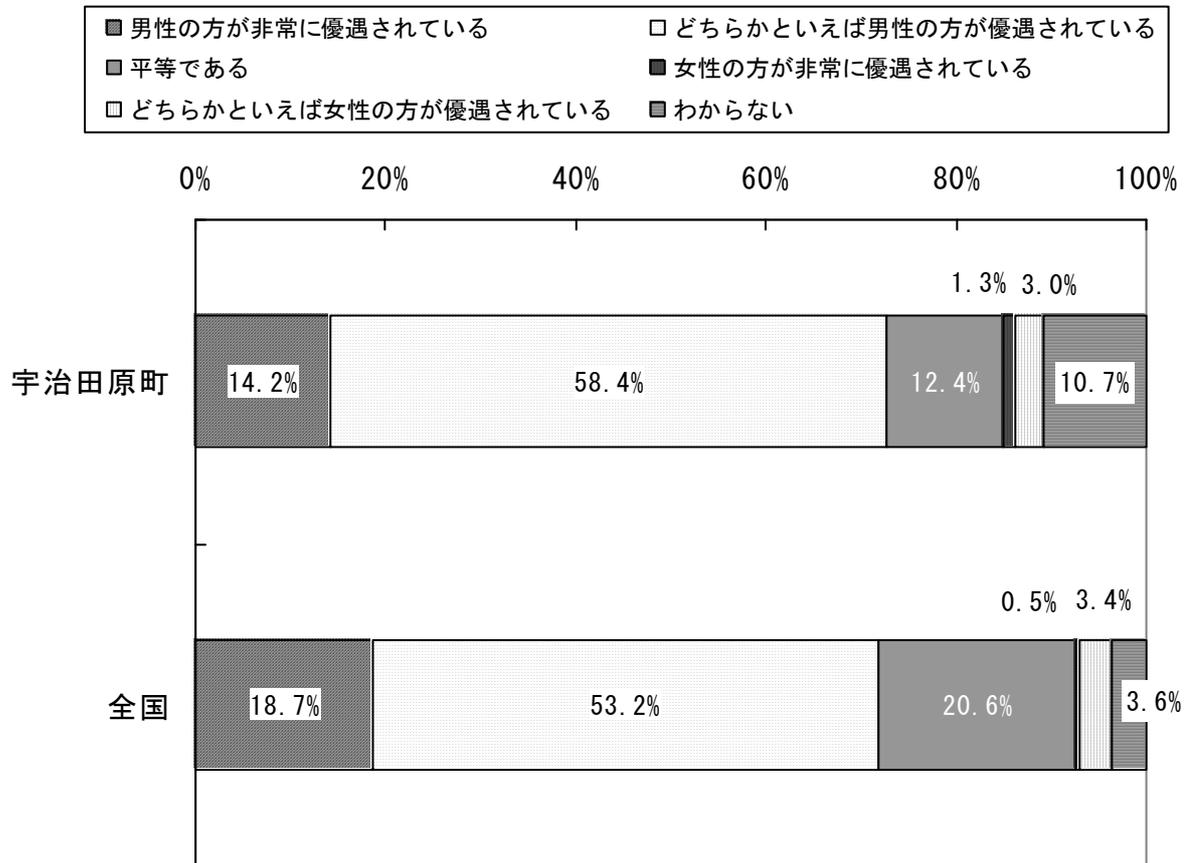
社会通念や慣習・しきたりなどでは、「男性の方が非常に優遇されている」13.6%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」56.2%で、合わせて69.8%が男性の方が優遇されていると感じており、「平等である」は12.0%に留まっています。

性別でみると「平等である」は男性18.2%に対し、女性7.0%と、男性が11.2ポイント高くなっています。

年齢別にみると「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は40歳代で最も高くなっています。



この結果を全国調査（平成21年）と比較すると、宇治田原町は「平等である」は全国に比べ低い結果となっています。（宇治田原町の値は全国調査にあわせ、無回答分を除いたうえで、再集計したものの。）



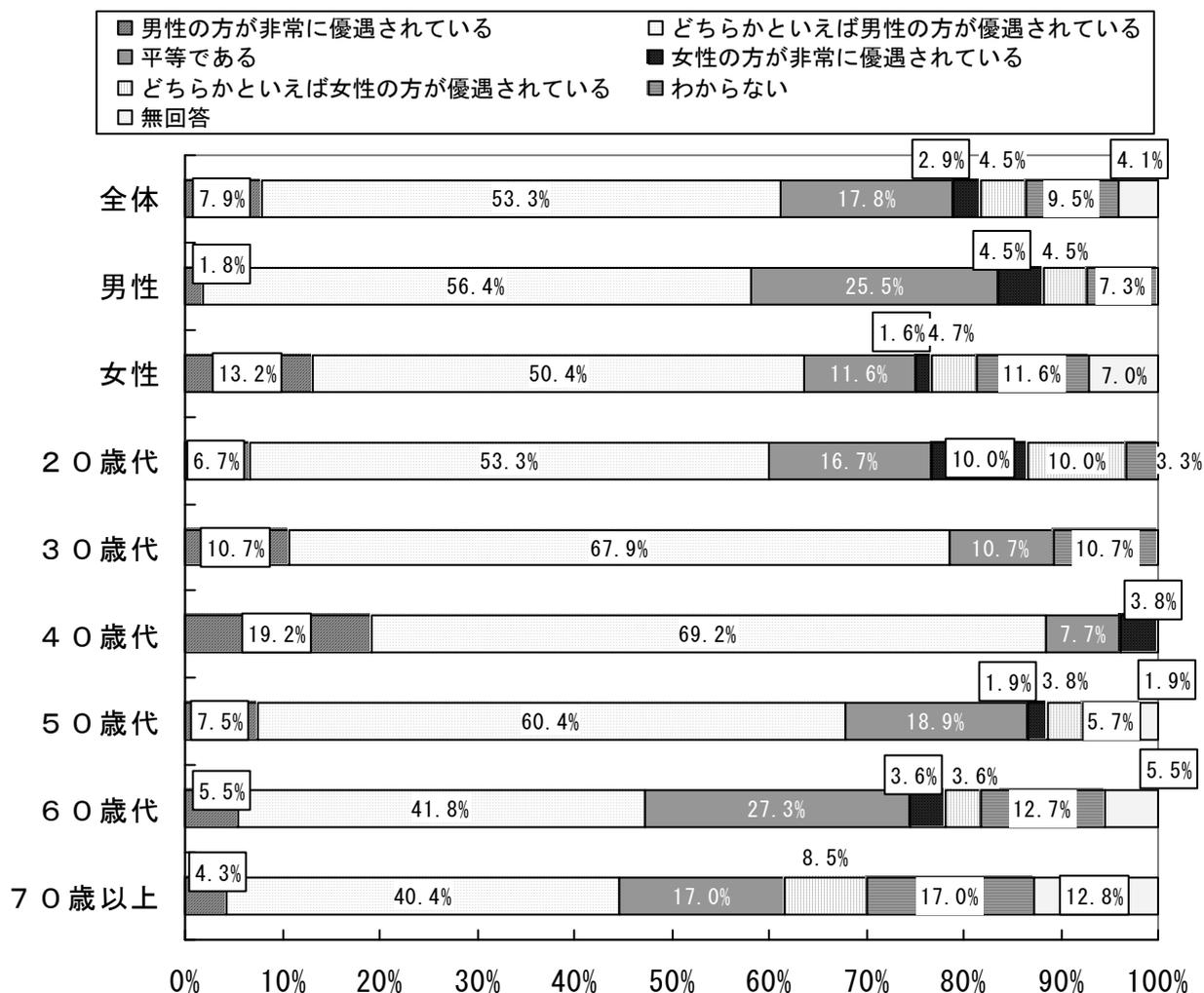
⑧ 社会全体では

「社会全体」において男性優遇の意識が極めて高く、平等の意識は低い。特に女性や40歳代ではその傾向が強い。

社会全体においては「男性の方が非常に優遇されている」が7.9%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が53.3%で、合わせて61.2%が男性の方が優遇されていると感じており、「平等である」は17.8%に留まっています。

性別でみると「平等である」は男性25.5%に対し、女性11.6%と、男性が13.9ポイント高く、「男性の方が非常に優遇されている」は男性1.8%、女性13.2%と、女性が11.4ポイント高くなっています。

年齢別にみると40歳代で「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が最も高くなっています。



3 結婚や職業など生活全般について

(1) 結婚についての考え方

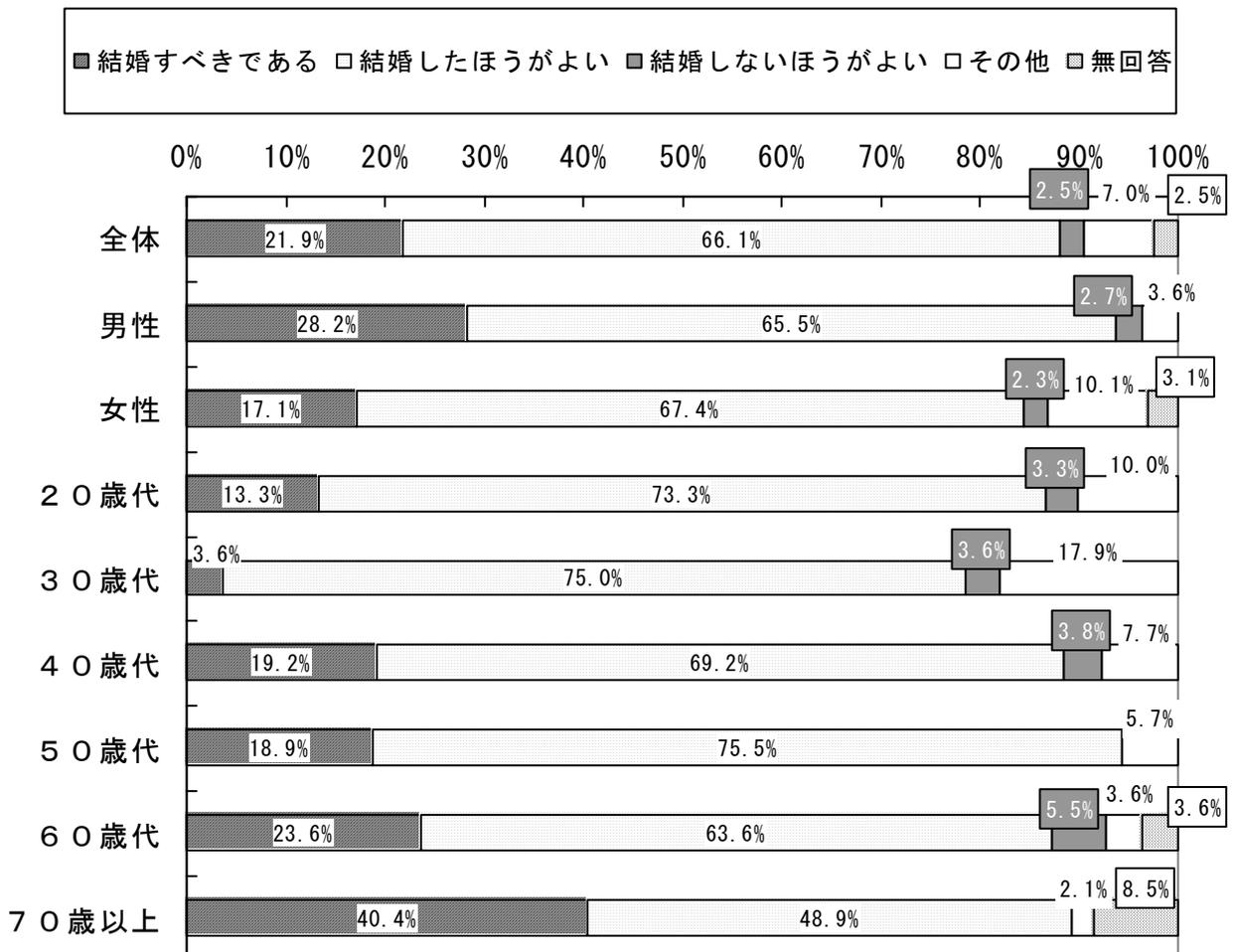
問9 あなたは結婚についてどのようにお考えですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

結婚すべきであるという意識は女性に比べ男性が高い、また結婚すべきであるの意識は70歳代以上で特に高い。

「結婚すべきである」が21.9%、「結婚したほうがよい」が66.1%、「結婚しないほうがよい」が2.5%となっています。「その他」の回答も7.0%と高く、記述内容は「本人の自由」等とする意見が多くなっています。

性別でみると「結婚すべきである」は男性28.2%に対し女性17.1%と、男性が11.1ポイント高くなっています。

年齢別にみると「結婚すべきである」は特に30歳代で低くなっており、50歳以上では年齢層が高くなるにつれて高くなっています。



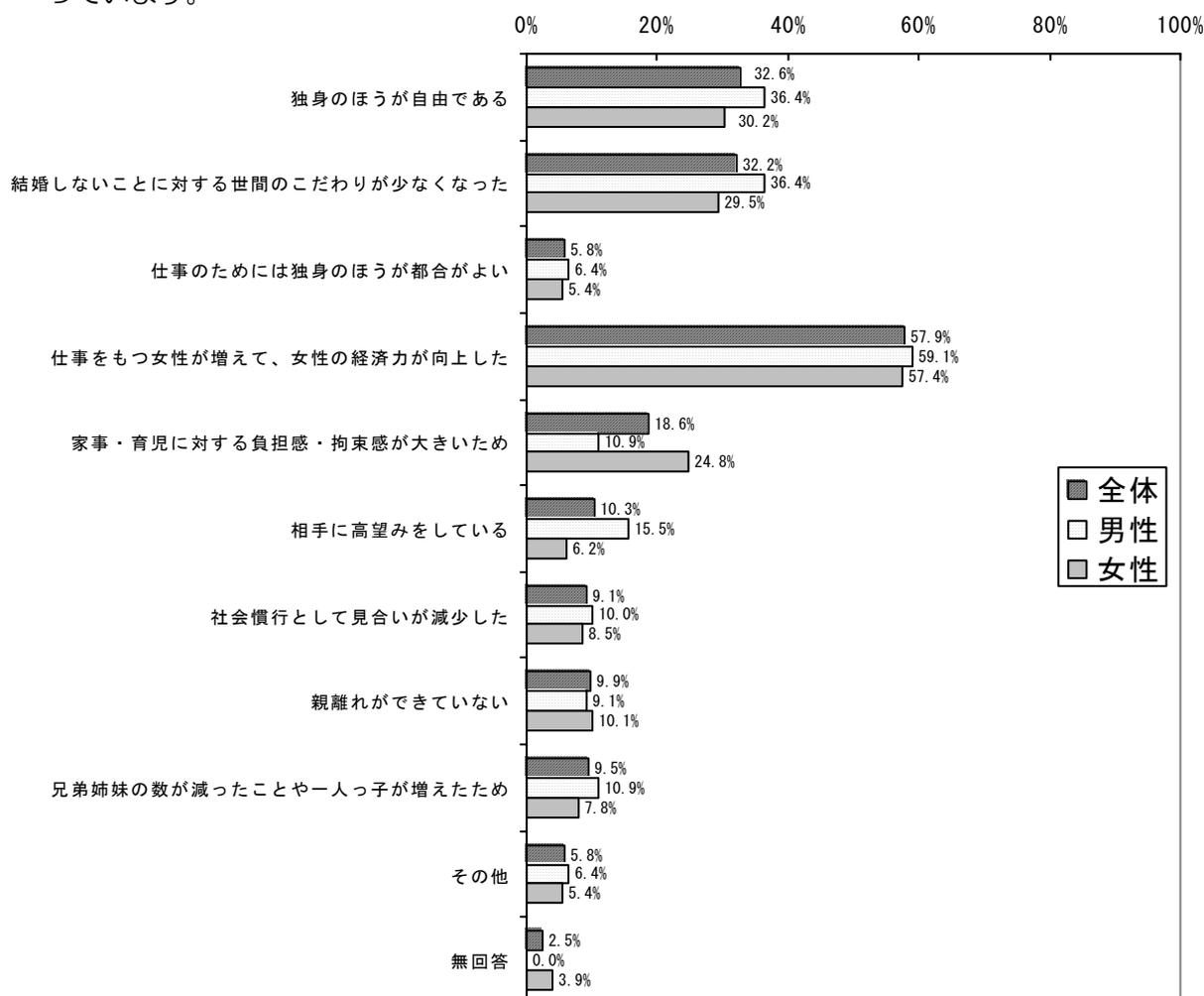
(2) 晩婚化の理由についての考え方

問10 日本では晩婚化が進んでいますが、晩婚化の理由について、あなたはどのようにお考えですか。あてはまるものを2つまで選んでください。

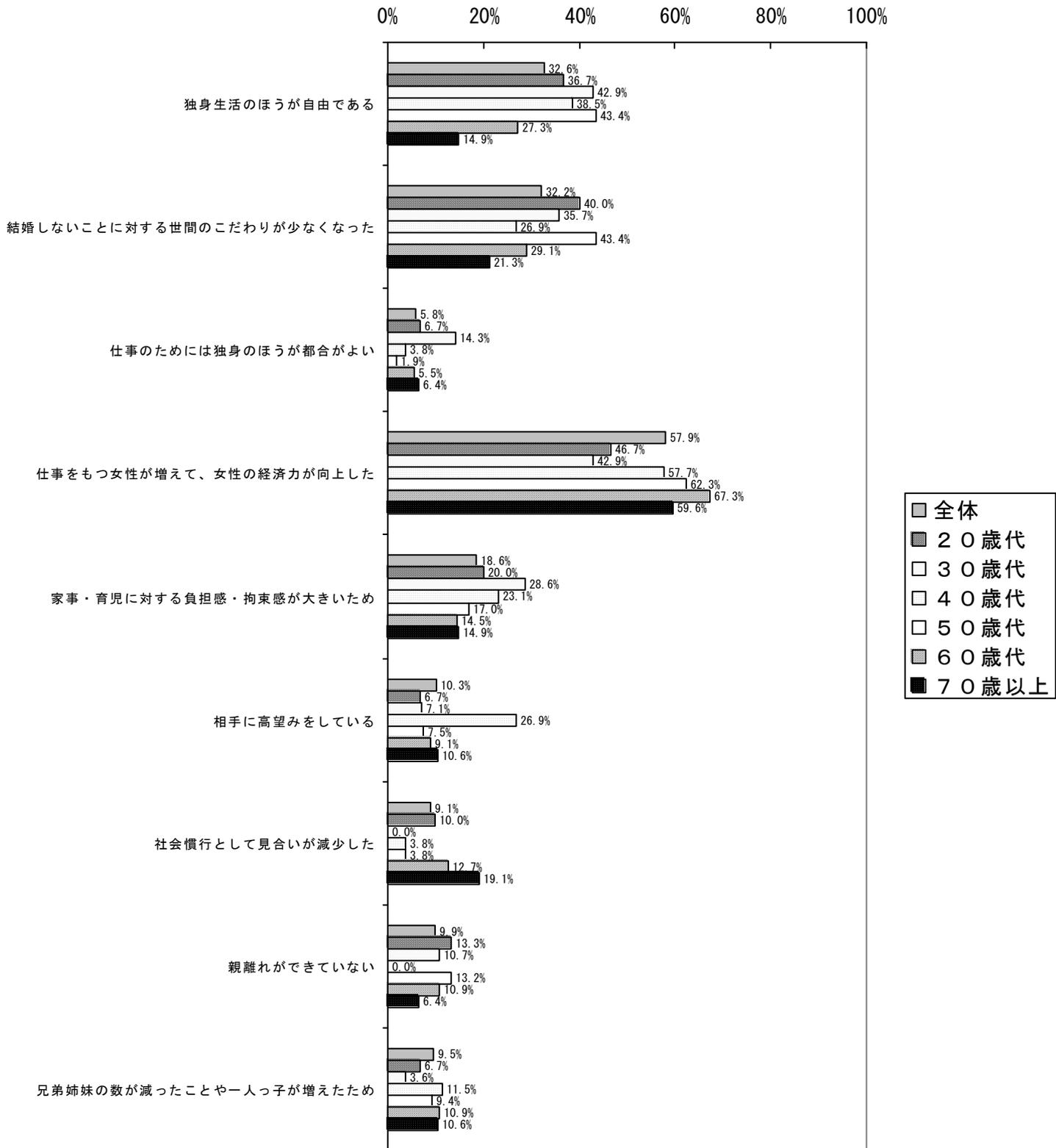
晩婚化は女性の経済力向上にあることを理由とする意見が多い。その一方で女性及び30歳代では家事・育児に対する負担感・拘束感が大きいことを晩婚化の理由に挙げている意見が多い。

「仕事をもつ女性が増えて、女性の経済力が向上した」が57.9%で最も高く、次いで「独身生活のほうが自由である」32.6%、「結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなった」32.2%、「家事・育児に対する負担感・拘束感が大きい」18.6%などの順になっています。

性別でみると「結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなった」は男性が36.4%に対し女性29.5%と男性が6.9ポイント、「独身生活のほうが自由である」は男性が36.4%に対し女性30.2%と男性が6.2ポイントと高くなっています。また「家事・育児に対する負担感・拘束感が大きい」は男性10.9%に対し女性24.8%と、女性が13.9ポイント高くなっています。



年齢別に見ると「独身生活のほうが自由である」は30歳代、50歳代が高く、以降年齢層が高いほど、低くなる傾向になっています。「結婚しないことに対する世間のこだわりは少なくなった」は70歳代で低く、50歳代で最も高くなっています。「仕事をもつ女性が増えて、女性の経済力が向上した」は全世代で高くなっています。「家事・育児に対する負担感・拘束感が大きい」は30歳代を頂点とした山型のグラフとなっています。



※その他、無回答を除く選択肢を掲載

(3) 離婚についての考え方

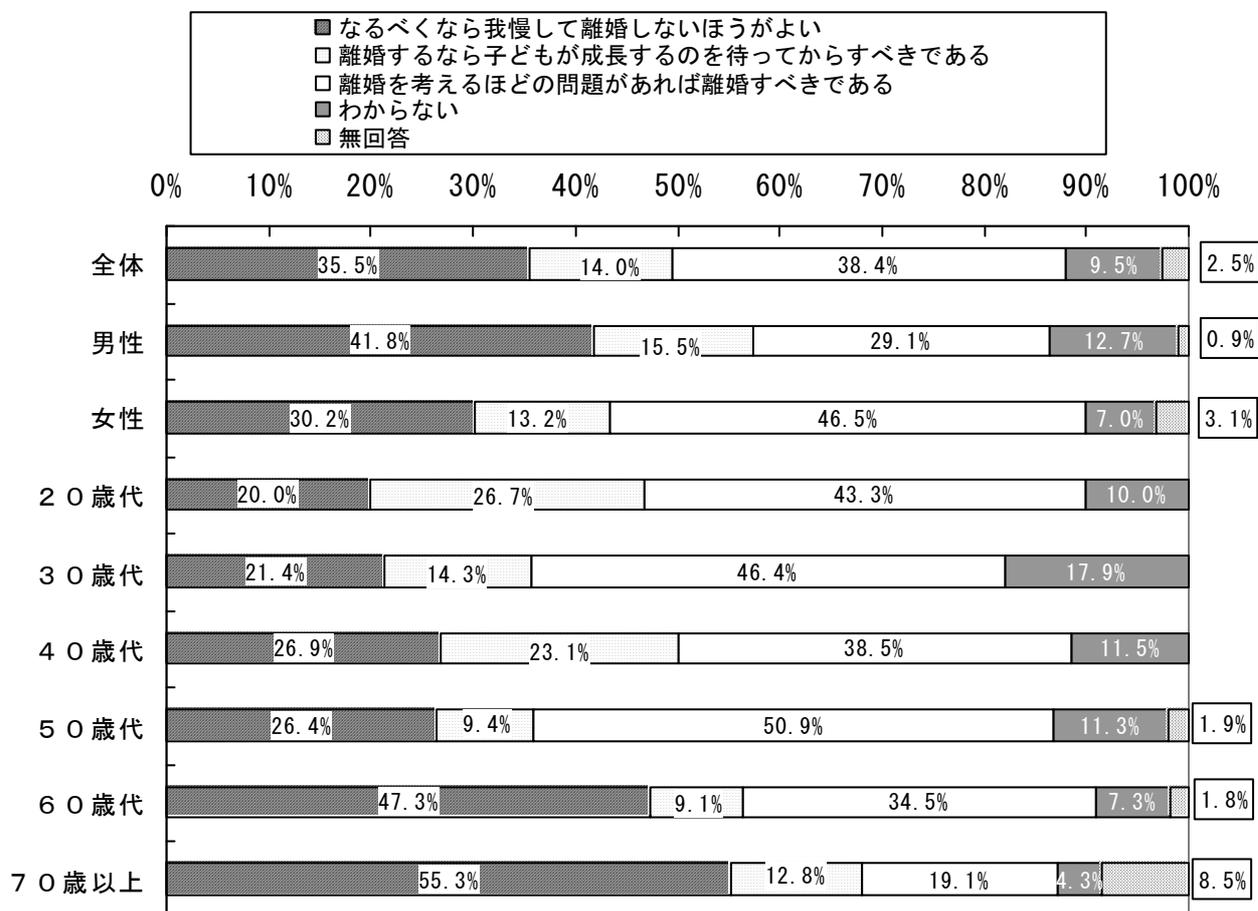
問11 あなたは離婚についてどのようにお考えですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

離婚については、離婚を考えるほどの問題があれば離婚すべきであるという意識は男性に比べ女性が高い。逆に、離婚しないほうがよいという意識は男性に比べ女性が高い。年齢層ごとの意識も大きく異なる。

「離婚を考えるほどの問題があれば離婚すべきである」38.4%が最も高く、次いで「なるべくなら我慢して離婚しないほうがよい」35.5%、「離婚するなら子どもが成長するのを待ってからすべきである」14.0%などの順となっています。

性別で見ると「離婚を考えるほどの問題があれば離婚すべきである」は男性29.1%に対し女性46.5%と、女性が17.4ポイント高くなっています。一方、「なるべくなら我慢して離婚しないほうがよい」は男性41.8%に対し女性30.2%と、男性が11.6ポイント高くなっており、離婚に対する男女の意識の差が表れています。

年齢別で見ると「離婚を考えるほどの問題があれば離婚すべきである」は50歳代で最も高くなっており、70歳以上で最も低くなっています。一方「なるべくなら我慢して離婚しないほうがよい」は20歳代で最も低く、年齢層が高くなるにつれ高くなっています。



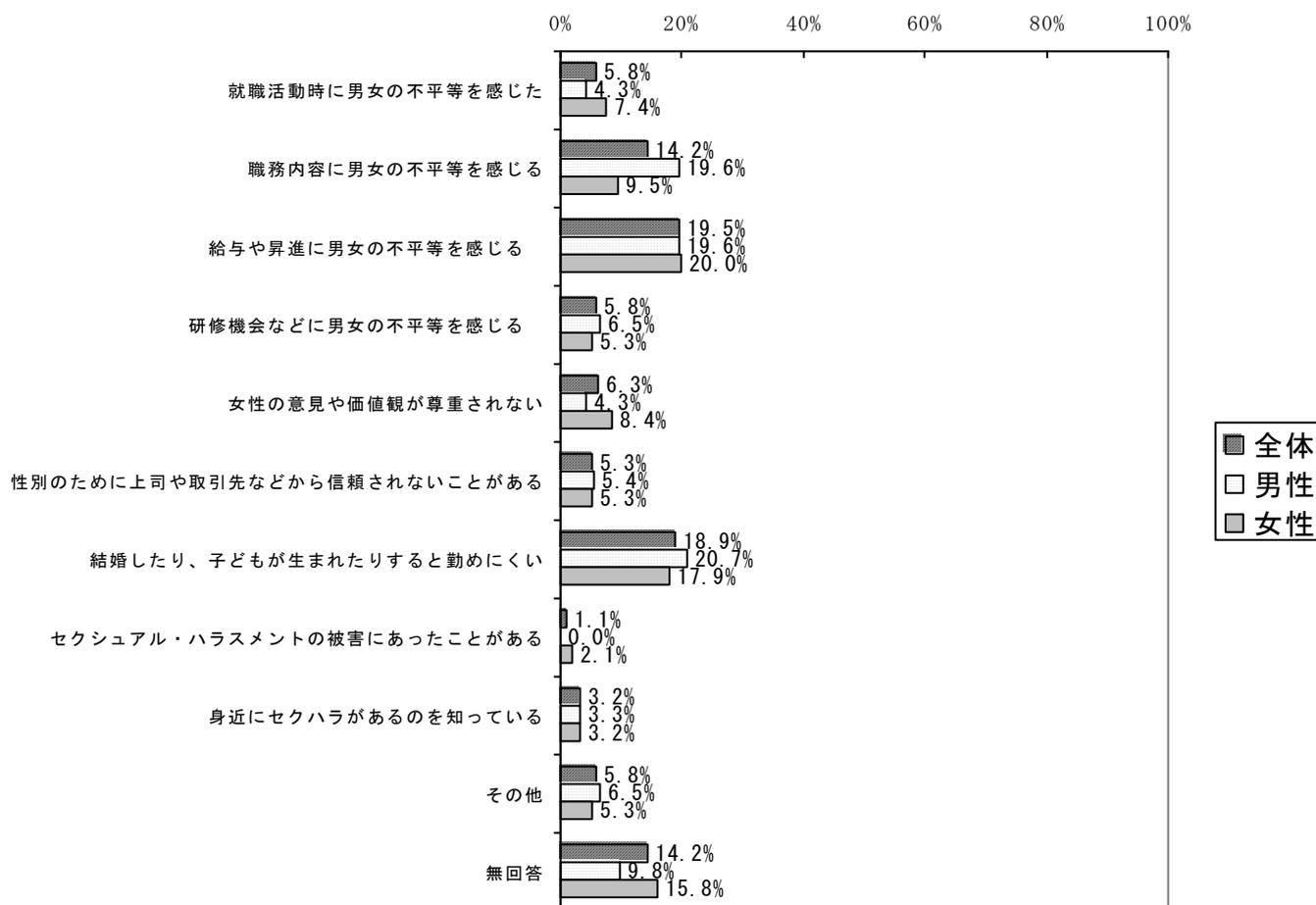
(4) 職業・職場における男女間不平等など

問12 (現在企業や団体などで就労している方におたずねします。) あなたの職業・職場について、あてはまるものをすべて選んでください。

職業・職場において男女間平等を感じることは、給与面、昇進面と結婚や出産に際して仕事が続けられないことなどが多い。

「給与や昇進に男女の不平等を感じる」19.5%が最も高く、次いで「結婚したり、子どもが生まれたりすると勤めにくい」18.9%、「職務内容に男女の不平等を感じる」14.2%などの順となっています。

性別でみると「給与や昇進に男女の不平等を感じる」は男性19.6%に対し女性20.0%と、女性が0.4ポイント高くなっています。「結婚したり、子どもが生まれたりすると勤めにくい」は男性20.7%に対し女性17.9%と男性が2.8ポイント高くなっています。「職務内容に男女の不平等を感じる」は男性19.6%に対し女性9.5%と、男性が10.1ポイント高くなっています。



※ 無回答はすべて非該当（勤め人でない回答者）とみなして集計。

※ セクシュアル・ハラスメント・・・職場や教育現場などで行われる一方的な性的要求、性的ないやがらせや脅迫などの言動。男性側の逆セクシュアル・ハラスメントも含むもの。

(5) 結婚・出産後の就労・退職についての満足度

問13 (結婚されている方※におたずねします。※婚姻はしていないが異性と同居している方も含みます。) 結婚・出産後のあなたの就労・退職について満足していますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。(男性も、自分の結婚後、配偶者の出産後の自分自身のことをお答えください。)

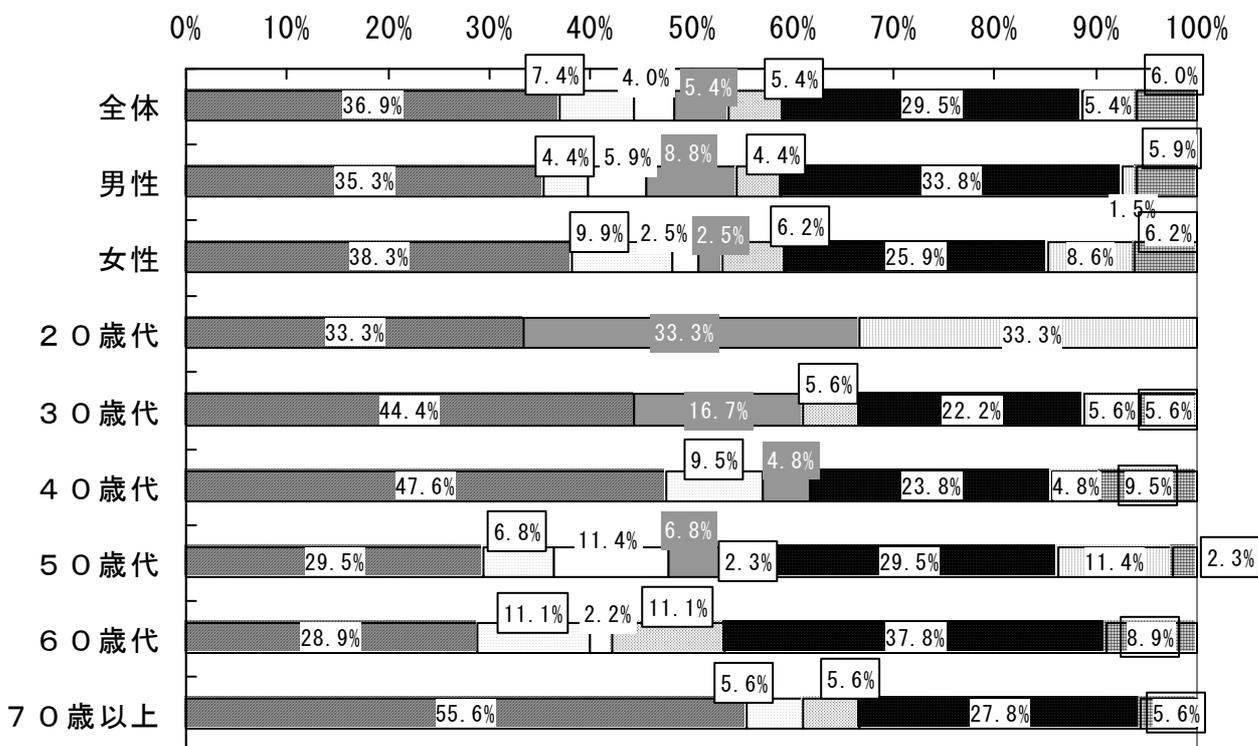
結婚・出産後の就労・退職について満足している割合は少なく、特に女性ではこの傾向が強い。また、家庭生活を優先しながら働くことができなかったことへの不満も高い。

「満足」は36.9%で、63.1%がグラフに示す何らかの理由で不満を示しています。なかでも「もっと家庭生活を優先しながら働きたかった」は29.5%で最も高い不満の理由になっています。

性別でみると、「満足」は男性35.3%に対し女性38.3%と、男性が3.0ポイント低くなっています。

年齢別でみると「満足」は60歳代で最も低く、70歳以上で最も高くなっています。また、20歳代では33.3%が「もっと長く育児休暇をとりたかった」、同じく33.3%が「退職して家庭や育児に専念したかった」と回答しています。

■ 満足
□ 退職せずに育児休暇をとりたかった
▨ もっと長期間働きたかった
□ 退職して家庭や育児に専念したかった
□ 退職せずに働きたかった
▨ もっと長く育児休暇をとりたかった
■ もっと家庭生活を優先しながら働きたかった
▨ その他



※ 無回答者はすべて非該当（勤め人でない回答者）とみなして集計。

(6) 女性が職業をもつことについて

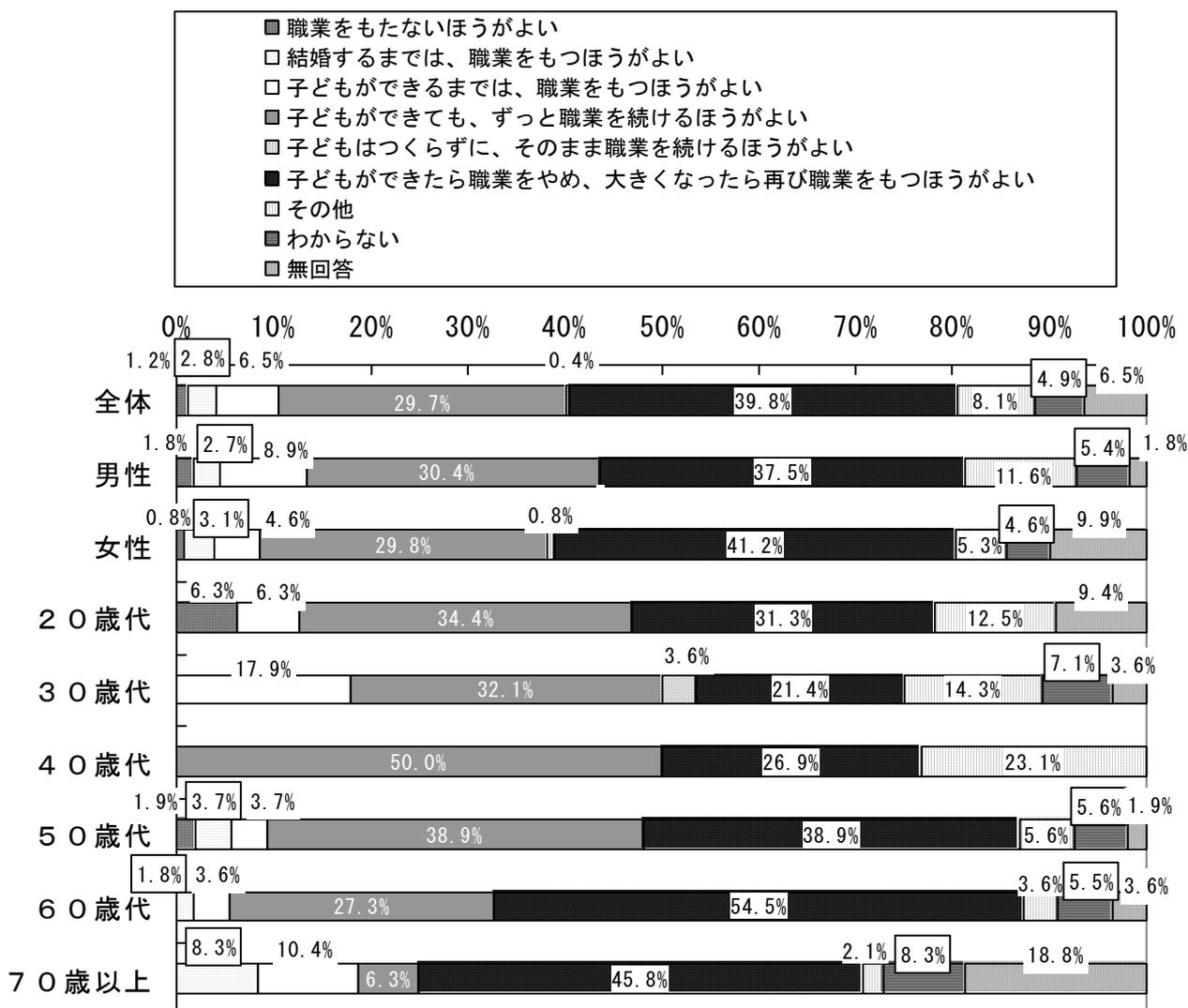
問14 女性が職業（収入のある仕事）をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

女性が職業をもつことについては、子育て中は休業するのがよいとする意見が最も多く、子育てしながらの仕事継続の意見も次いで多くなっている。

「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」が最も多く39.8%、次いで「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」が29.7%などの順になっています。

性別にみると「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」は男性37.5%に対し女性41.2%と、女性が3.7ポイント高くなっています。

年齢別にみると「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」は、40歳代まで年齢層が高くなるほど高くなり、40歳代の50.0%をピークに、以降は高い年齢層になるほど低くなっています。



(7) 家庭における家事の分担

問15 (結婚されている方、※におたずねします。※婚姻はしていないが異性と同居している方も含みます。) あなたの家庭では、次のような家事を、主にだれが分担していますか。

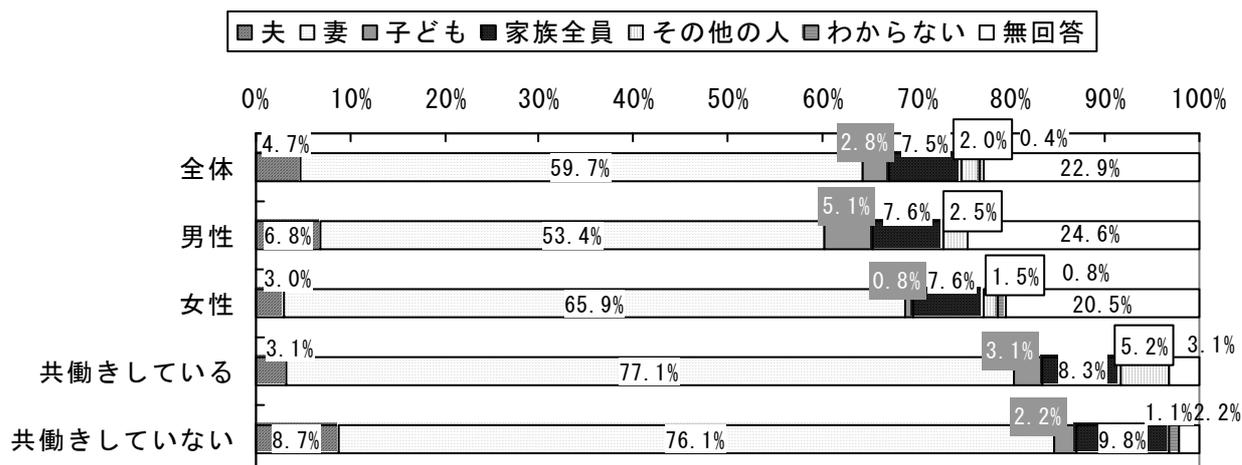
それぞれの項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。

家事の主な分担は妻が多く、他の家族は少ない。共働き世帯も共働きでない世帯もこの傾向はかわらない。

① 掃除

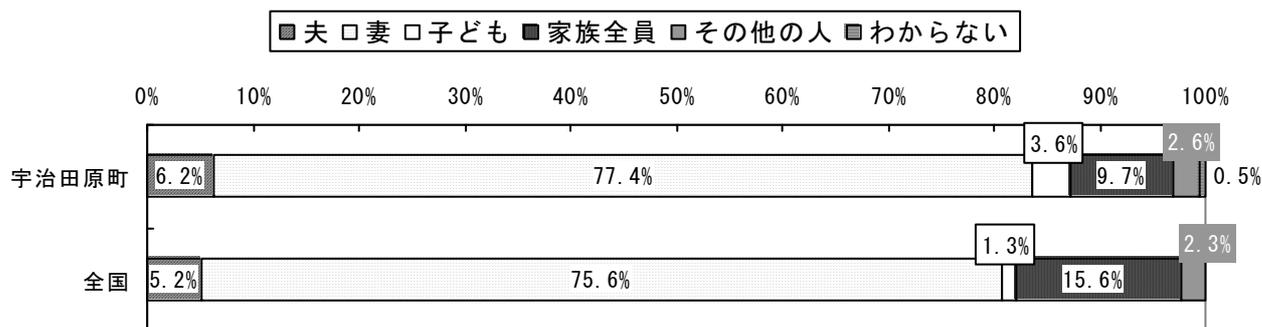
掃除は「妻」が59.7%で、夫、子ども、家族全員などは低くなっています。

また回答は性別で異なっており、「妻」は女性で65.9%、男性で53.4%と、男女間に掃除の主な分担について捉え方の違いがあります。さらに、共働きの状況別にみても「妻」の回答率が高い傾向に違いはありませんでした。



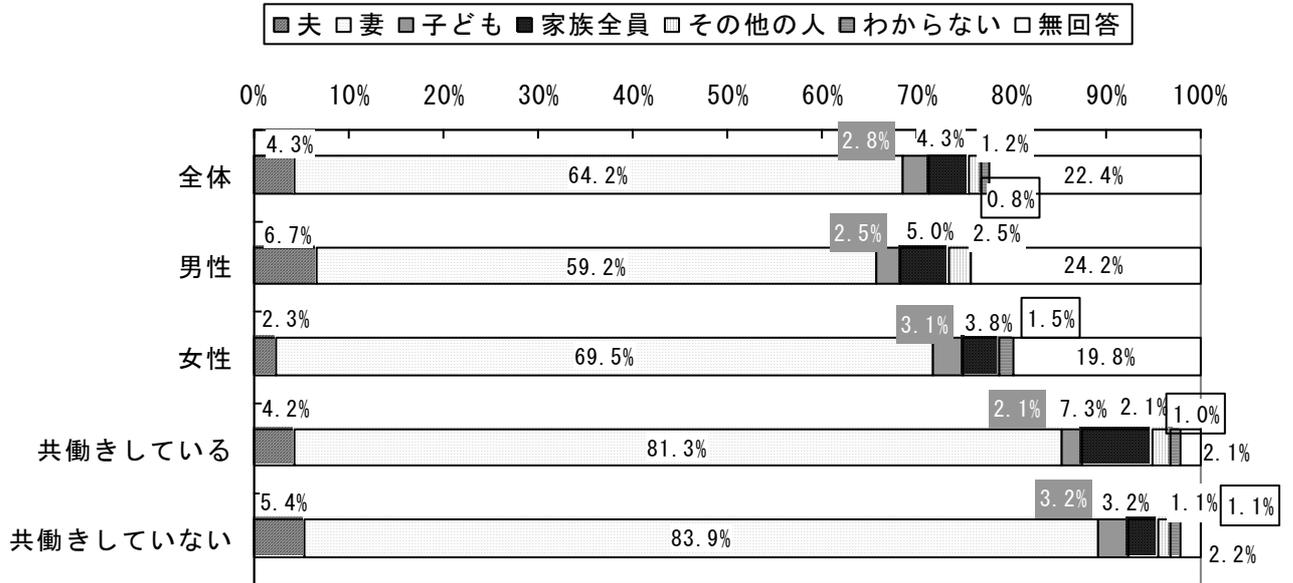
※ 「共働きしている」「共働きしていない」は「共働き」の項目が無回答を除いて再集計

この結果を全国調査(平成19年)と比較すると「妻」は全国で75.6%、宇治田原町で77.4%とあまり差はありません。(全国は単数回答、宇治田原町は複数回答可。また宇治田原町は無回答を除いて再集計の上、比較したもの)



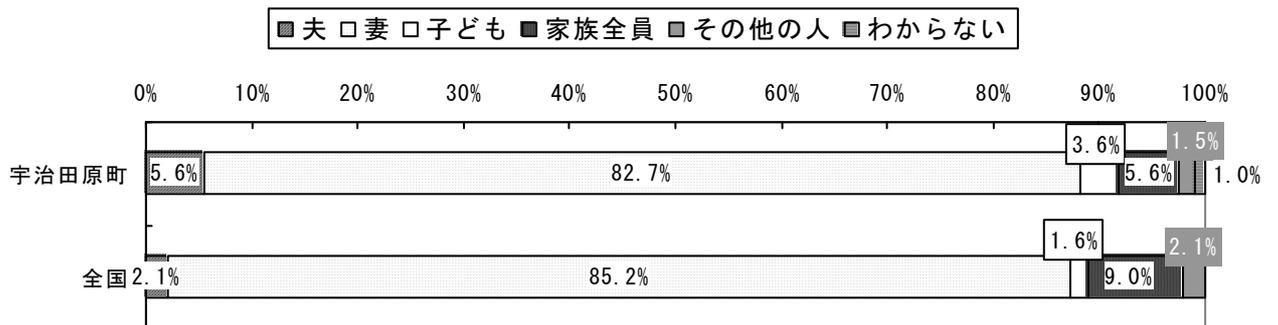
② 食事のしたく

食事のしたくは「妻」が64.2%で、夫、子ども、家族全員などは低くなっています。共働きの状況別にみても「妻」の回答率が高い傾向に違いはありませんでした。



※ 「共働きしている」「共働きしていない」は「共働き」の項目が無回答を除いて再集計

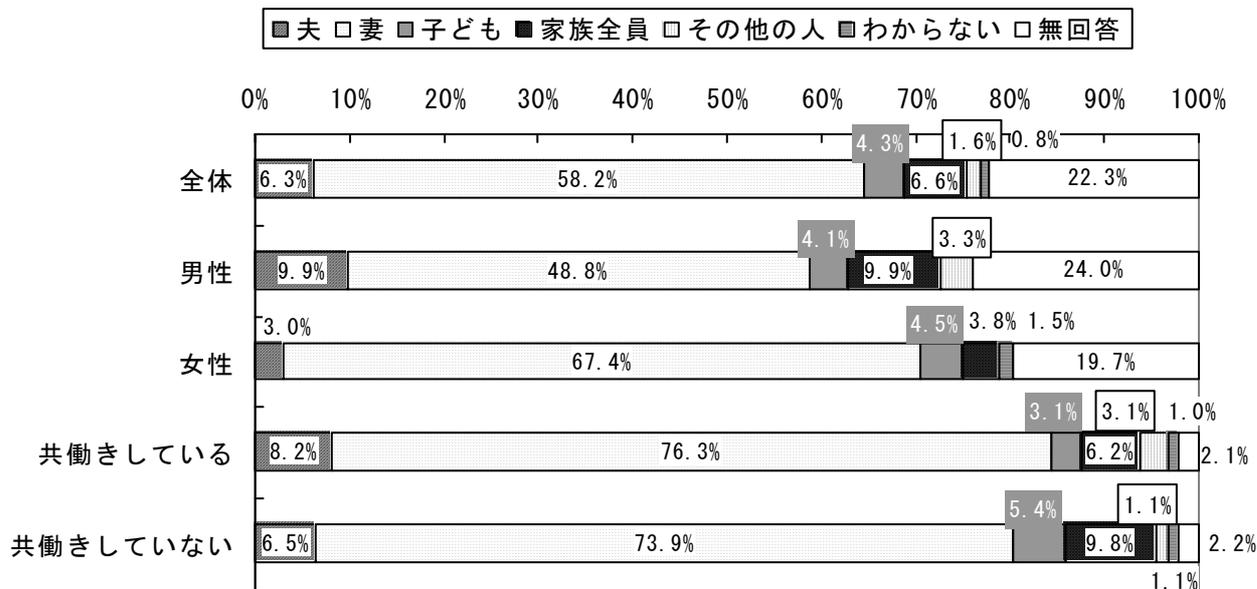
この結果を全国調査(平成19年)と比較すると、「妻」は全国で85.2%、宇治田原町で82.7%と、あまり差はありません。(全国は単数回答、宇治田原町は複数回答可。また宇治田原町は無回答を除いて再集計の上比較したもの)



③ 食事の後かたづけ、食器洗い

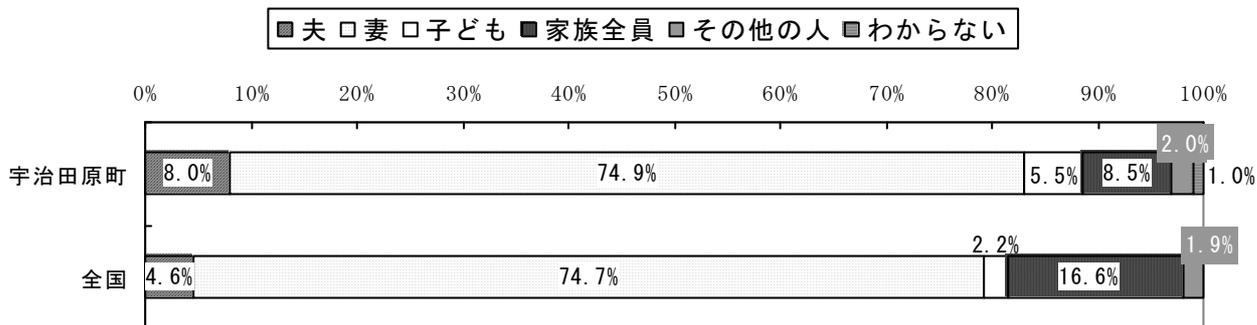
食事の後かたづけ、食器洗いは「妻」が58.2%で、夫、子ども、家族全員などは低くなっていますが、掃除、食事のしたく、洗たくに比べてやや夫の分担が増えています。

共働きの状況別にみても「妻」の回答率が高い傾向に違いはありませんでした。



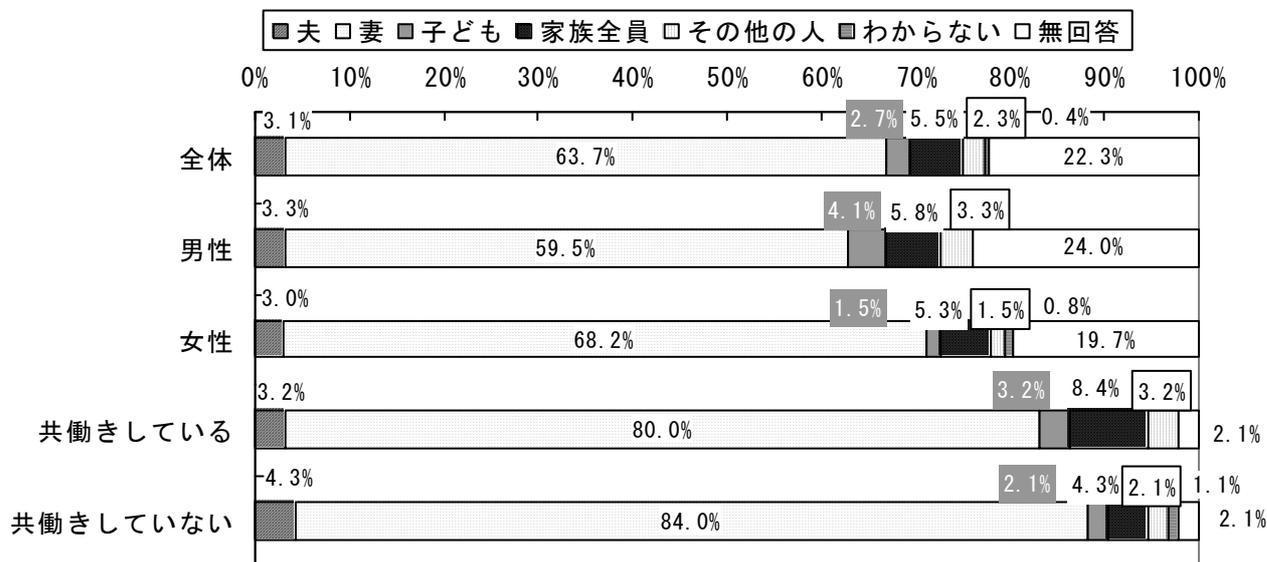
※ 「共働きしている」「共働きしていない」は「共働き」の項目が無回答を除いて再集計

この結果を全国調査(平成19年)と比較すると、「妻」は全国で74.7%、宇治田原町で74.9%と、あまり差はありません。(全国は単数回答、宇治田原町は複数回答可。また宇治田原町は無回答を除いて再集計の上比較したもの)



④ 洗たく

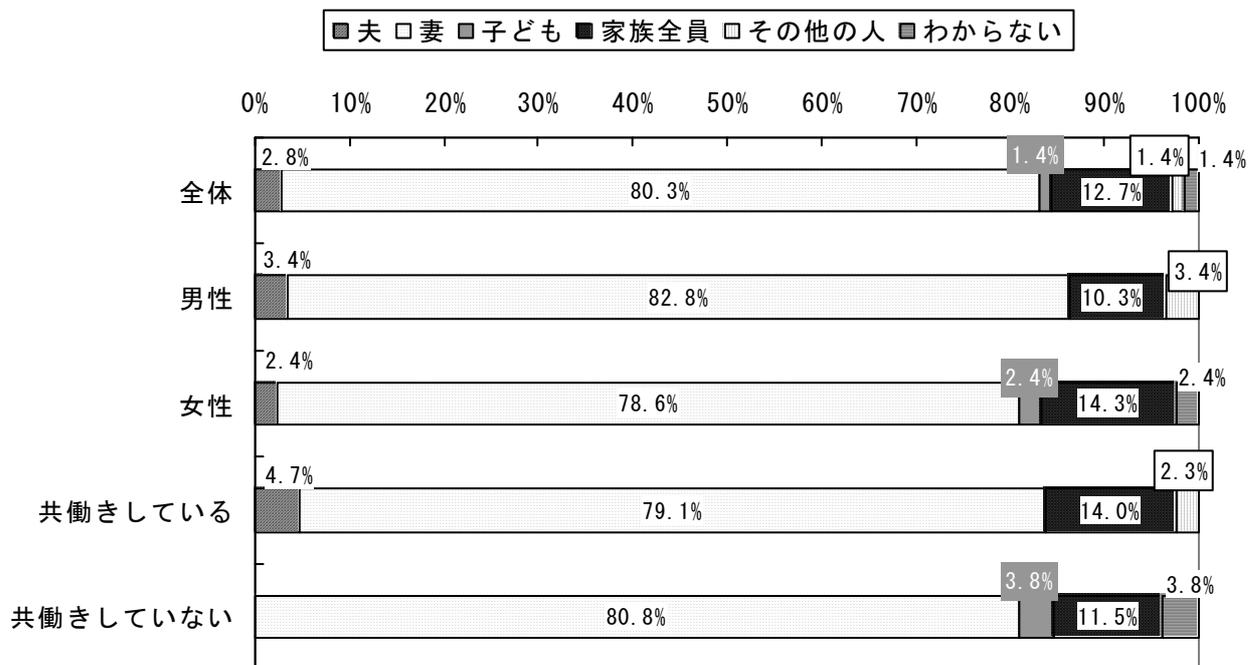
洗たくは「妻」が63.7%で、夫、子ども、家族全員などは低くなっています。共働きの状況別にみても「妻」の回答率が高い傾向に違いはありませんでした。



※ 「共働きしている」「共働きしていない」は「共働き」の項目が無回答を除いて再集計

⑤ 育児（育児のある方のみ）

育児は「妻」が80.3%で、夫、子ども、家族全員などは低くなっていますが、他の事項に比べて妻の分担が一段と高くなっています。共働きの状況別にみても「妻」の回答率が高くなっています。また「共働きをしていない家庭」において、「夫」の回答率の低さは顕著になっています。

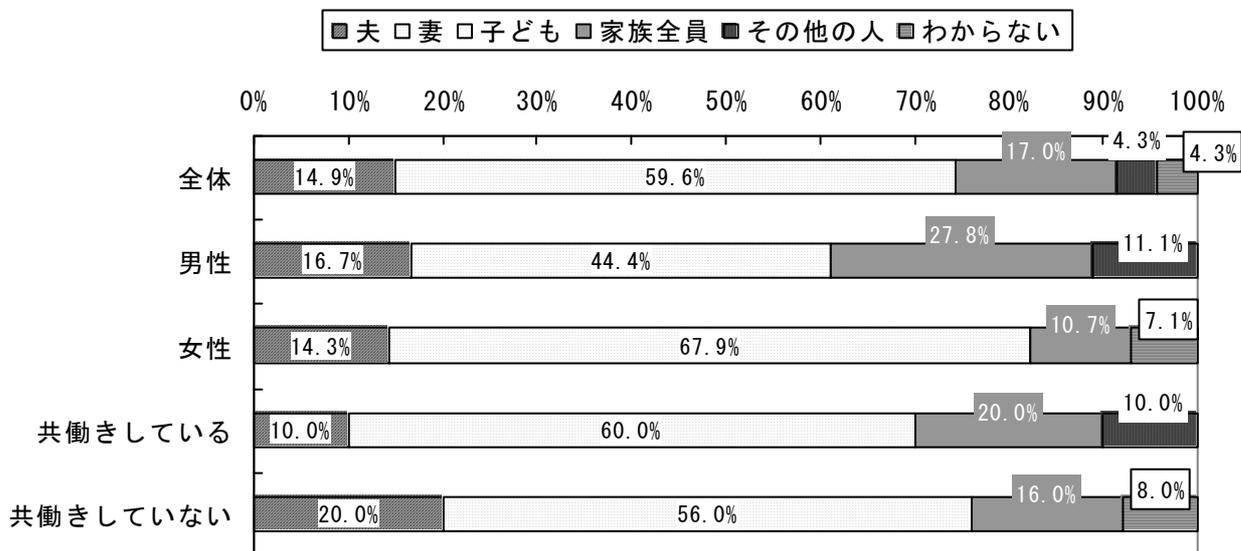


※ 無回答者はすべて非該当（育児のある方でない回答者）とみなして集計。「共働きしている」「共働きしていない」は「共働き」の項目が無回答を除いて再集計

⑥ 介護（介護のある方のみ）

介護は「妻」が59.6%となっています。介護は他の事項に比べ「夫」「家族全員」の回答率が高くなっています。その一方で、「子ども」の回答は全くありませんでした。

共働きの状況別にみてもこの傾向に違いはありませんでした。



※ 無回答者はすべて非該当（介護のある方でない回答者）とみなして集計。「共働きしている」「共働きしていない」は「共働き」の項目が無回答を除いて再集計

4 人権について

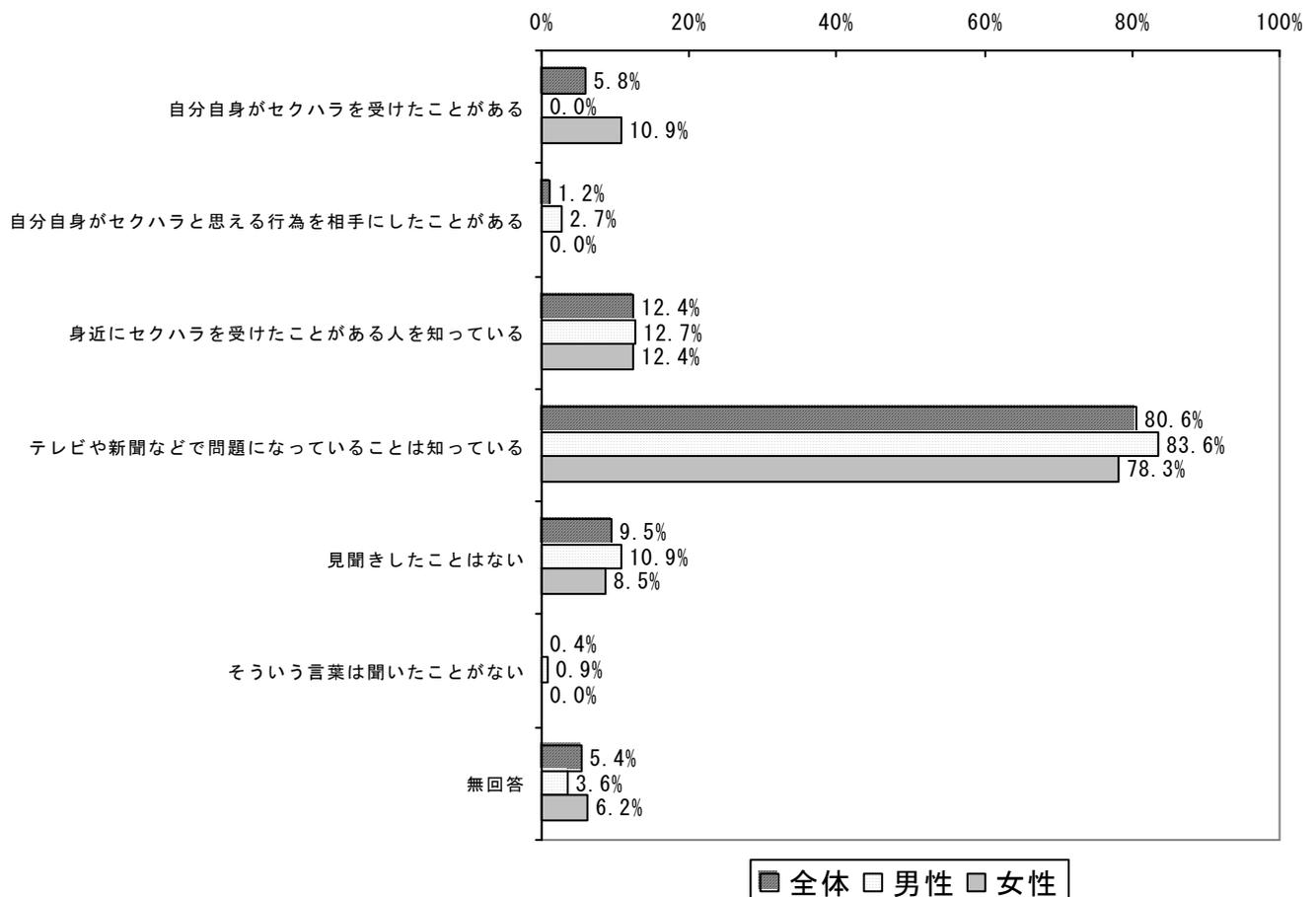
(1) セクシュアル・ハラスメントの経験など

問16 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）が問題になっていますが経験したり、見聞きしたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

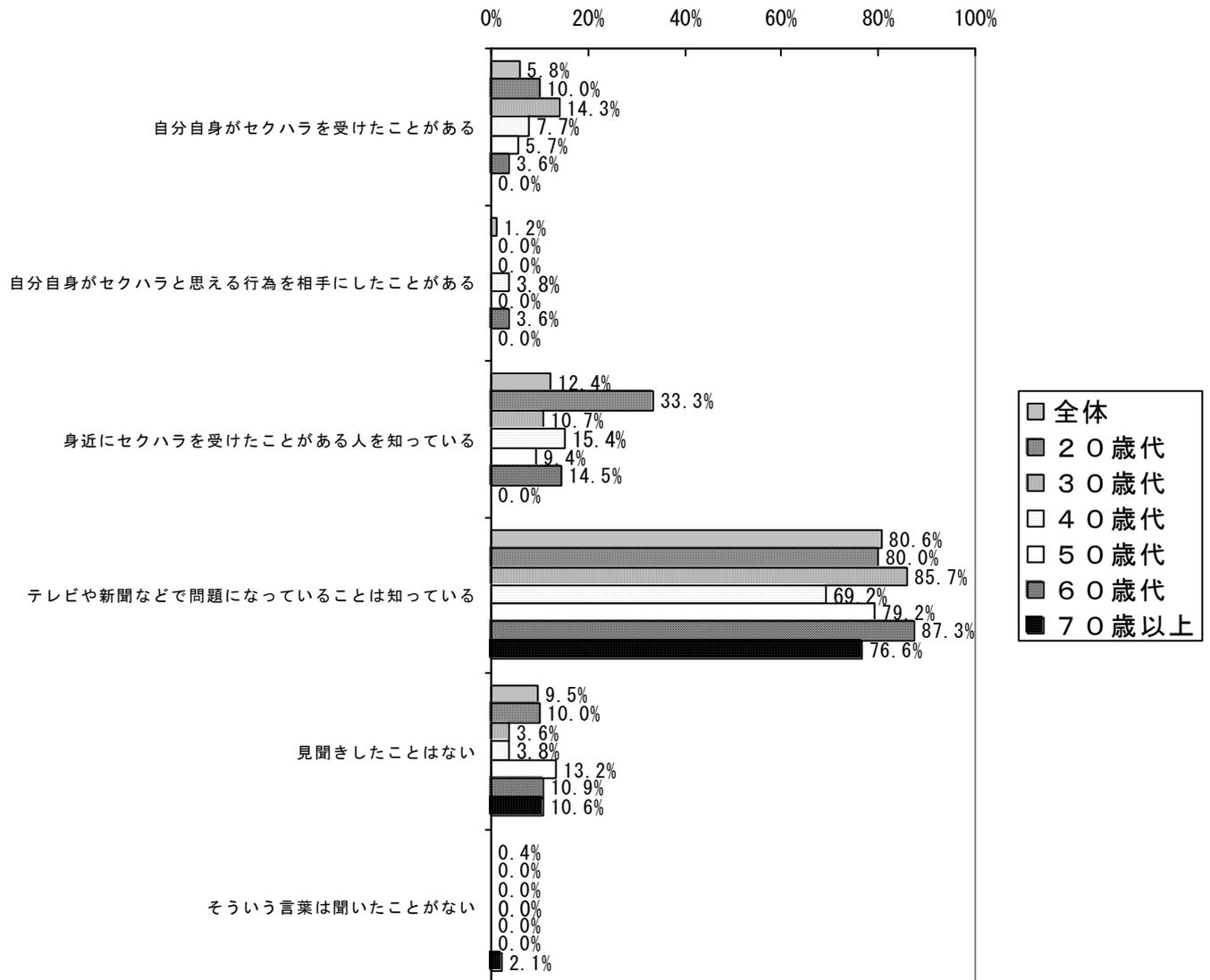
身近でセクシュアル・ハラスメントを見聞きしている割合が12.4%に及んでいる。また、女性では自分自身がセクハラを受けたことがあるが10.9%に及んでいる。

「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が80.6%と最も多くなっています。また、「身近にセクハラを受けたことがある人を知っている」が12.4%、「自分自身がセクハラを受けたことがある」が5.8%に及んでいます。

性別でみると「自分自身がセクハラを受けたことがある」は女性で10.9%に及んでいます。



年齢別にみると「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」は、全世代で高くなっています。「身近にセクハラを受けたことがある人を知っている」は20歳代、「自分自身がセクハラを受けたことがある」は30歳代で最も高くなっています。



※ 無回答を除き掲載

(2) セクシュアル・ハラスメントが起こる主な理由

問17 あなたはセクハラが起こる主な理由は何だと思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

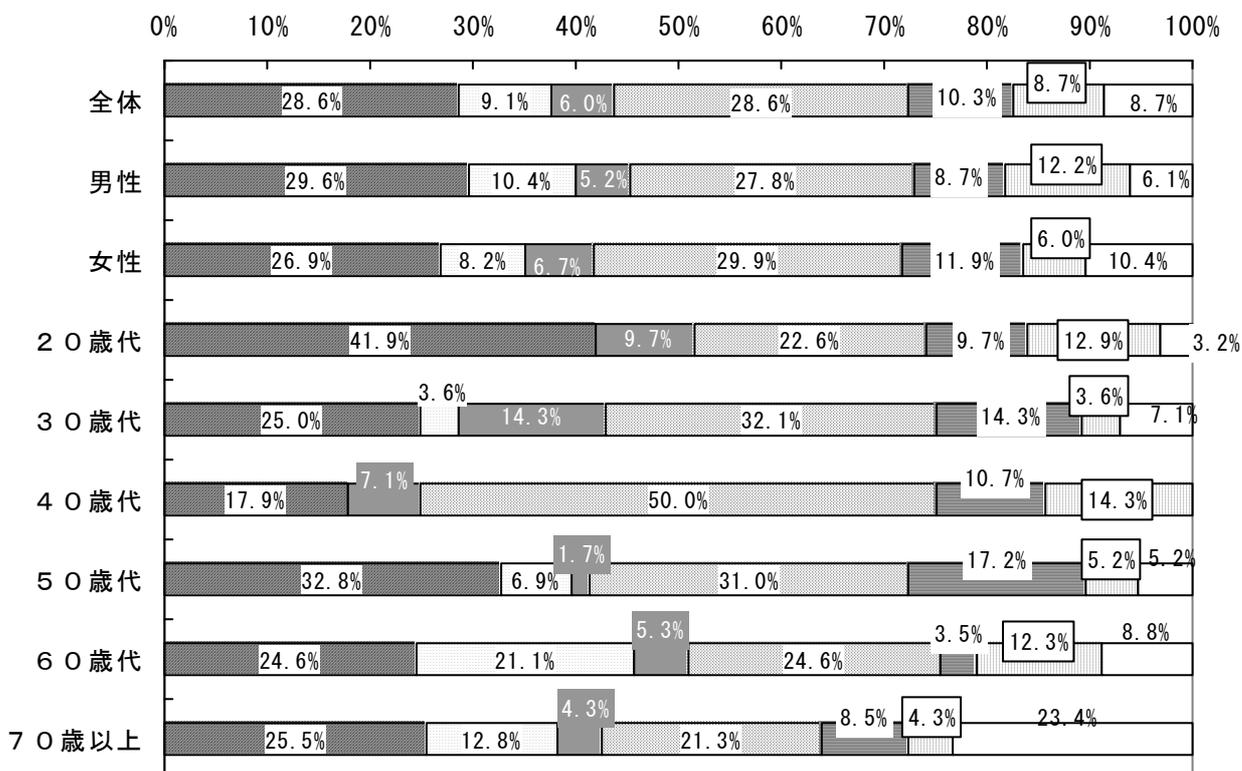
セクシュアル・ハラスメントが起こる原因は社会の雰囲気や男性優位の意識であるとする意見が男女共に多い。

「加害者だけでなく、セクハラを許すような社会の雰囲気の問題がある」28.6%と「男性優位の意識があるからだ」28.6%と特に高くなっています。また、「根強い男女の役割分担意識があるからだ」も10.3%と高くなっています。一方、「被害者にセクハラを受ける原因があるからだ」も9.1%であり、セクハラにおいて第一に被害者側の原因を問う方も決して少なくないことがわかります。

性別の傾向の違いは、ほとんどみられません。

年齢別にみると「被害者にセクハラを受ける原因があるからだ」は年齢層が高くなるにつれ、高い傾向が見られます。

- 加害者だけでなく、セクハラを許すような社会の雰囲気に問題がある
- 被害者にセクハラを受ける原因があるからだ
- 女性を「女の子」扱いし、一人前の社会人とみなさないからだ
- 男性優位の意識があるからだ
- 根強い男女の役割分担意識があるからだ
- その他
- 無回答



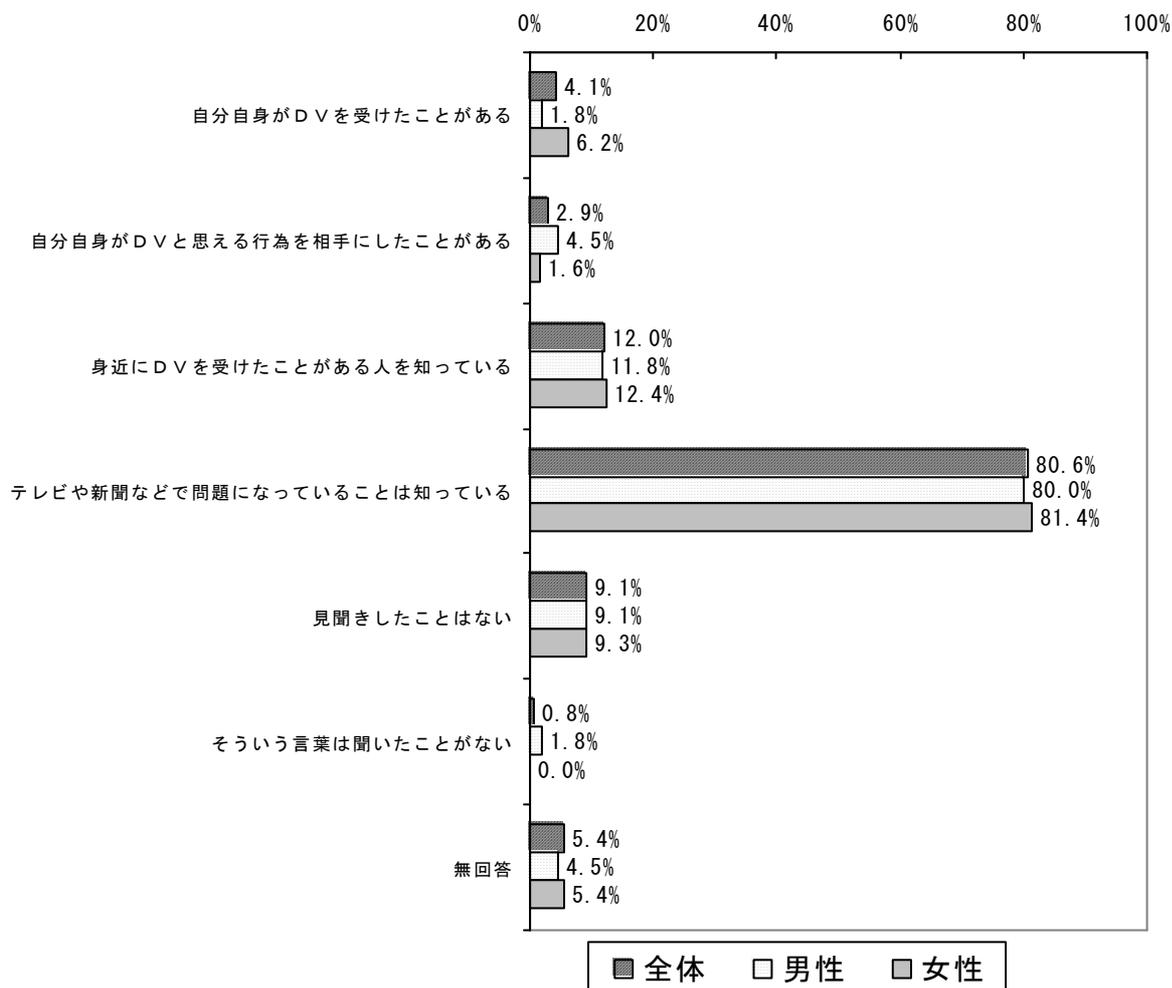
(3) ドメスティック・バイオレンスの経験など

問18 女性が夫、恋人などから受ける身体的・心理的な暴力(ドメスティック・バイオレンス)が問題となっていますが、あなたは、夫婦や恋人などとの間での暴力について経験したり見聞きしたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

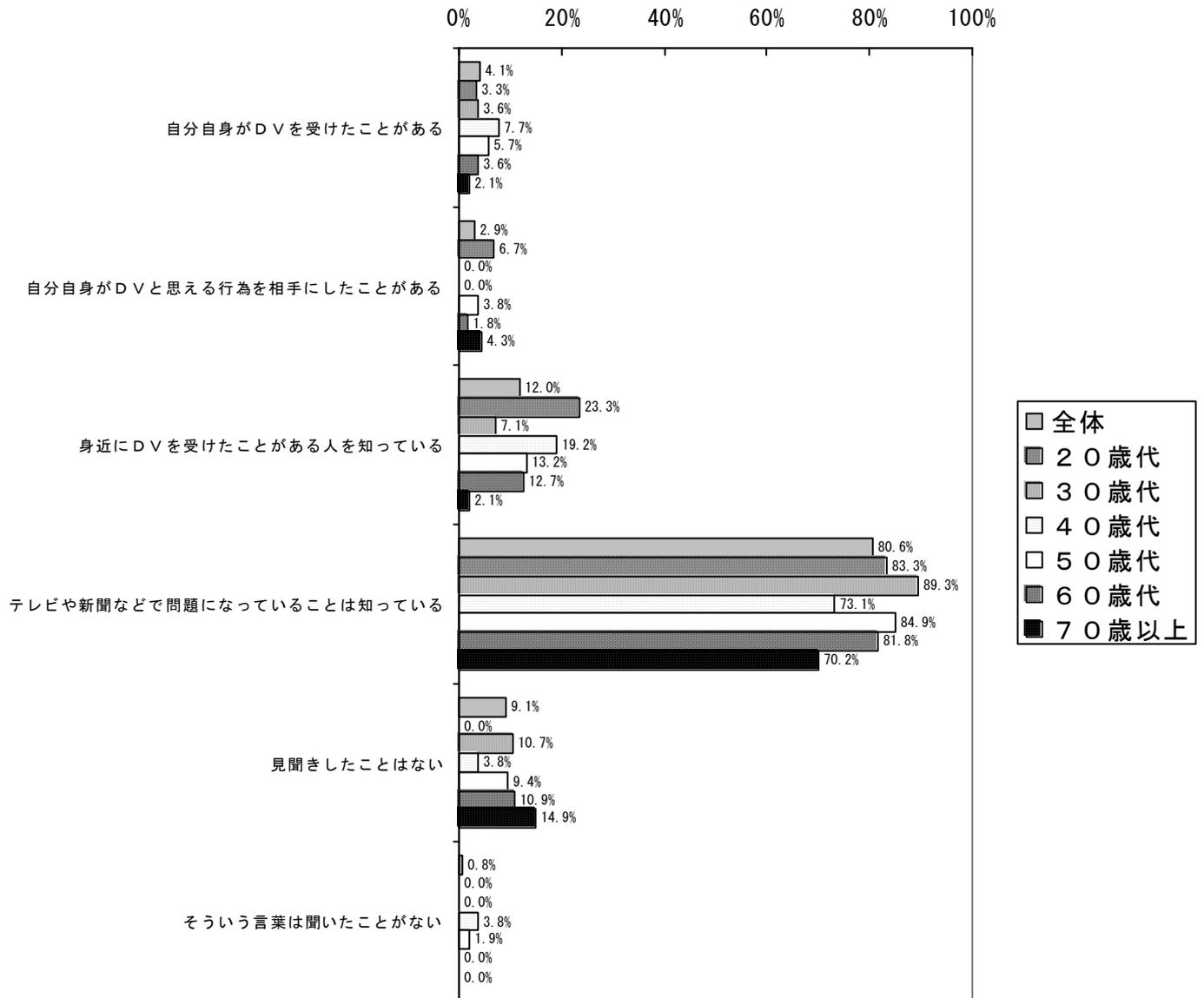
身近にDVを受けたことがある人を知っている人が12.0%、女性では自分自身がDVを受けたことがあるが6.2%に及んでいる。

「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が80.6%と最も高くなっています。また、「身近にドメスティック・バイオレンス(DV)を受けたことがある人を知っている」が12.0%、「自分自身がDVを受けたことがある」が4.1%、「自分自身がDVと考える行為を相手にしたことがある」が2.9%に及んでいます。

性別でみると女性で「自分自身がDVを受けたことがある」6.2%、男性で「自分自身がDVと考える行為を相手にしたことがある」4.5%に及んでいます。



年齢別にみると「身近にDVを受けたことがある人を知っている」は30歳代が低いものの、年齢層が低くなるほど高くなる傾向が見られます。また「自分自身がDVを受けたことがある」は40歳代を頂点とした山型グラフとなっています。



※ 無回答を除き掲載

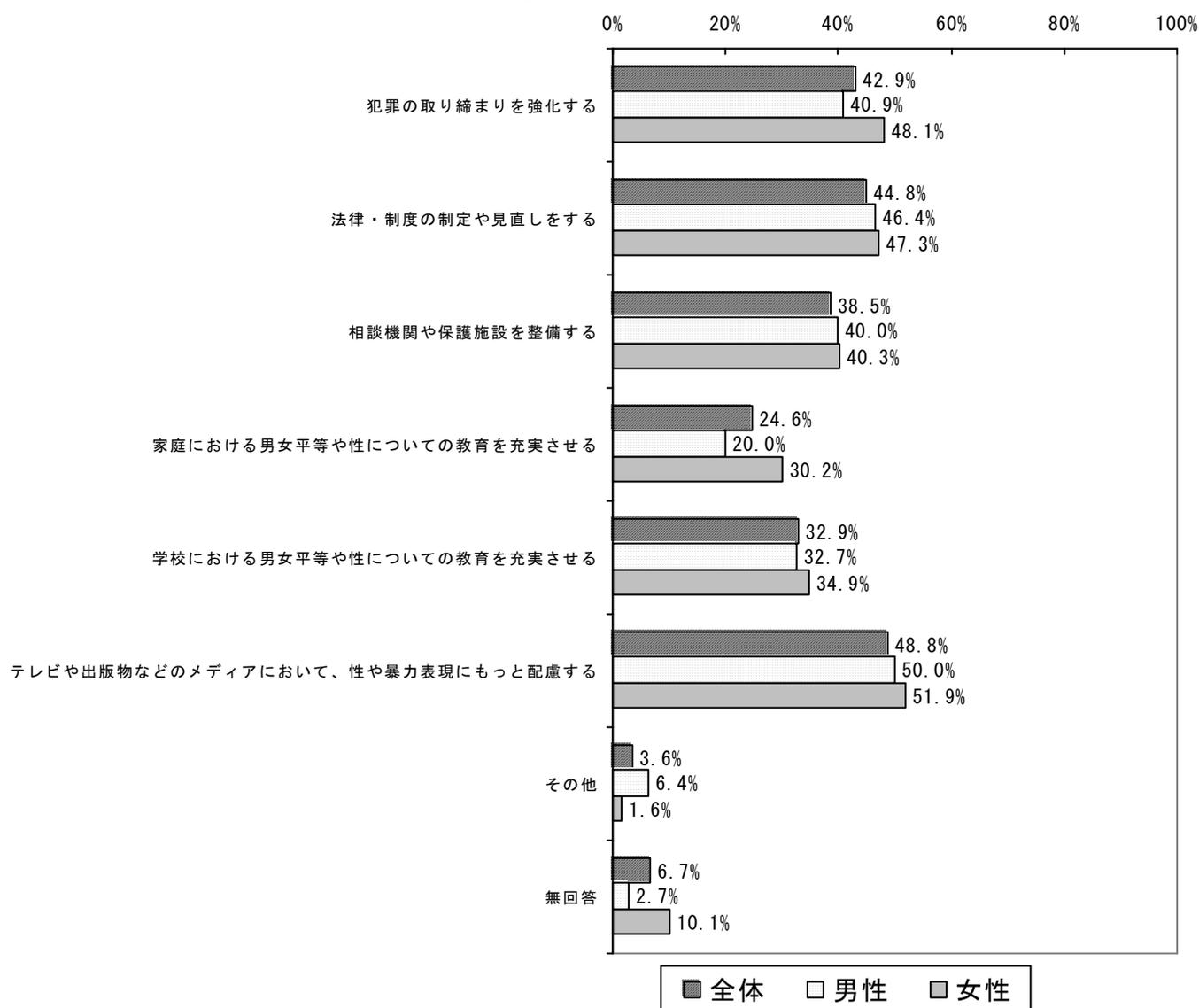
(4) 女性の人権を守るために必要なこと

問19 女性に対する暴力や性犯罪、売買春、セクハラなどから人権を守るために何が
必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

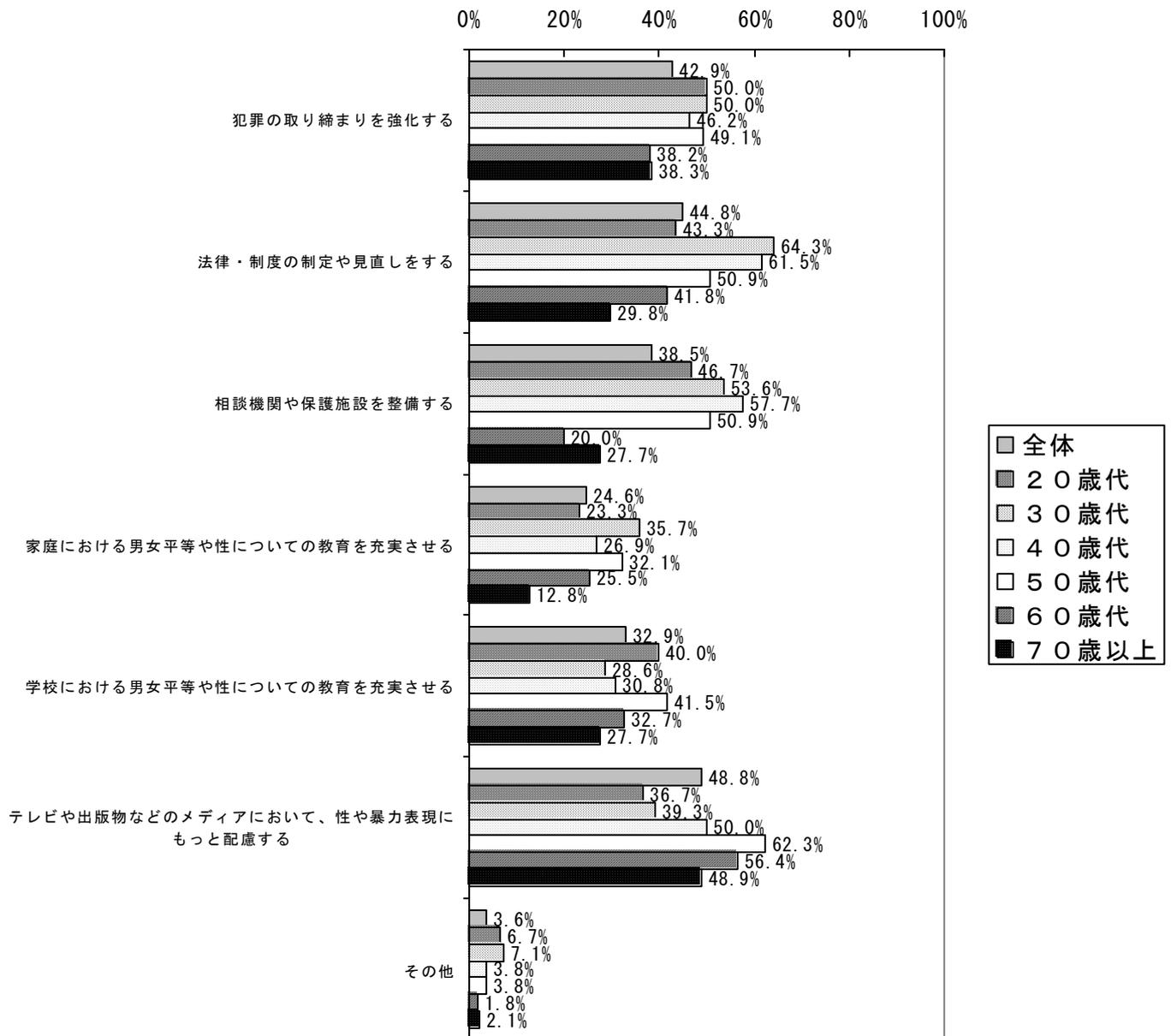
女性の人権を守るためにはテレビや出版物などの性や暴力表現にもっと配慮すべきとする
意見が約半数で最も多く、法律・制度の制定や見直し、犯罪の取り締まりの強化が必要と考
える意見が4割強に及ぶ。

「テレビや出版物などのメディアにおいて、性や暴力表現にもっと配慮する」が48.8%と最
も高く、次いで「法律・制度の制定や見直しをする」44.8%、「犯罪の取り締まりを強化する」
42.9%、「相談機関や保護施設を整備する」38.5%、「学校における男女平等や性についての
教育を充実させる」32.9%などの順になっています。

性別でみると「家庭における男女平等や性についての教育を充実させる」が男性20.0%に対
し女性30.2%と10.2ポイント女性が高くなっています。



年齢別にみると「法律・制度の制定や見直しをする」「相談機関や保護施設を整備する」は年齢層が低いほど高い傾向が見られる一方、「テレビや出版物などのメディアにおいて、性や暴力表現にもっと配慮する」は年齢層が高いほど高い傾向が見られます。



※ 無回答を除き掲載

5 男女共同参画のまちづくりについて

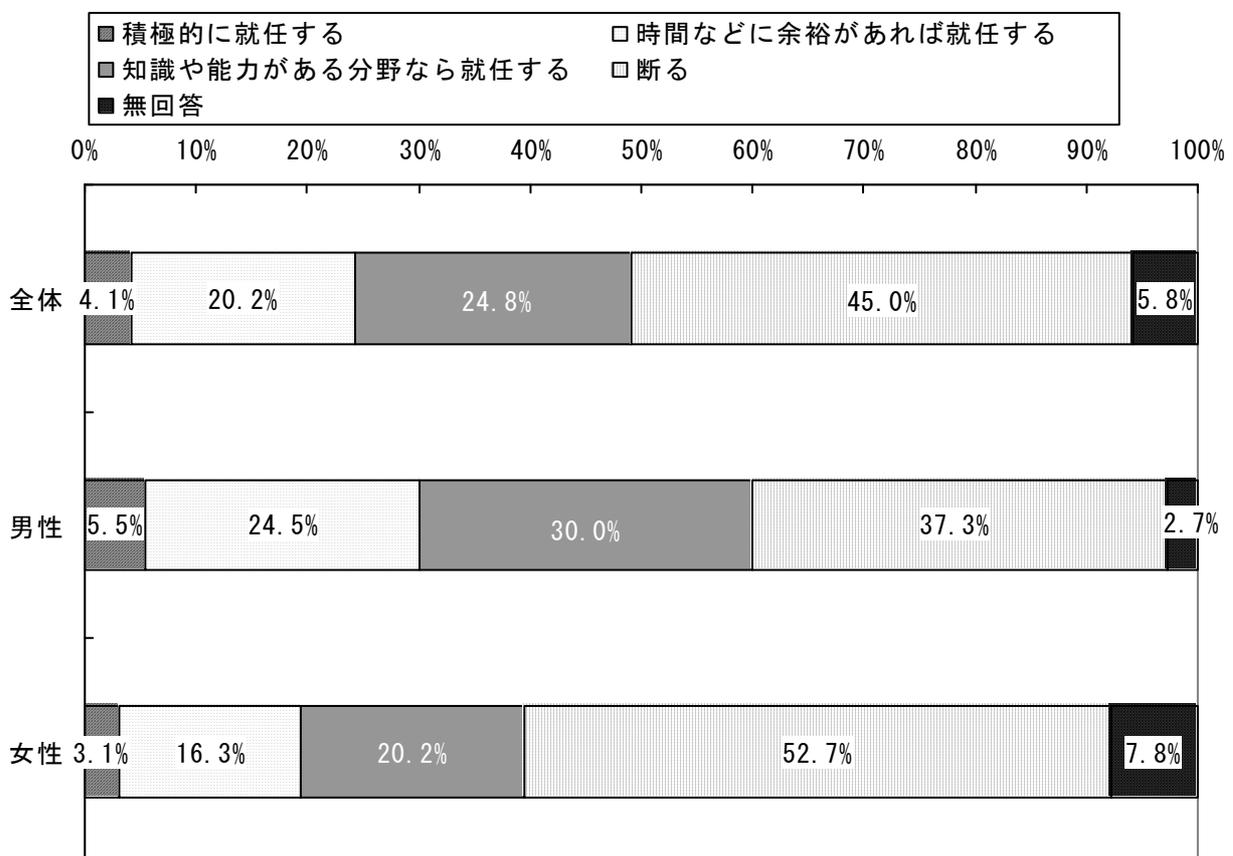
(1) 審議会等の委員への就任を依頼された時の対応

問20 府や町から審議会などの委員に就任してほしいと依頼されたらどうしますか。
あてはまるものを1つだけ選んでください。

府や町からの審議会などの委員依頼された場合、女性の対応が男性に比べ消極的であることがうかがえる。

府や町から審議会などの委員に就任して欲しいと依頼された場合、「積極的に就任する」「時間などに余裕があれば就任する」「知識や能力がある分野なら就任する」の合計が49.1%となり、「断る」45.0%とほぼ均衡しています。

性別の違いでみると「積極的に就任する」は男性5.5%に対し女性3.1%と女性が2.4ポイント低く、「断る」は男性37.3%に対し女性52.7%と、女性が15.4ポイント高くなっています。このことから府や町から審議会など委員に就任して欲しいと依頼された場合、女性の対応が男性に比べ消極的であることがうかがえます。



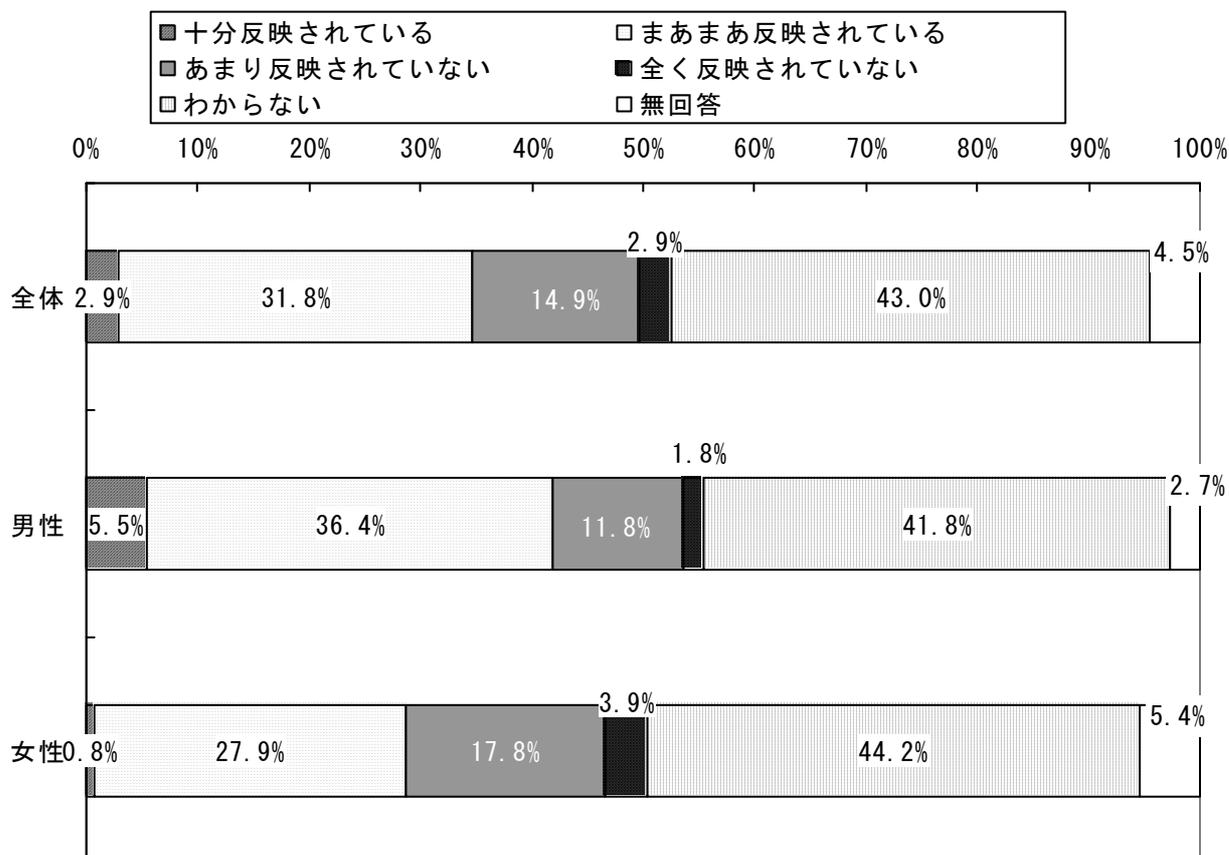
(2) 宇治田原町のまちづくりに女性の意見が反映されているか

問 2 1 宇治田原町のまちづくりや行政には、女性の意見が反映されていると思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

宇治田原町のまちづくりや行政には女性の意見が反映されていると思っている住民は約3割強であるが、わからないと回答した住民も多い。女性では意見が反映されていると思っている住民は男性より少ない。

「十分反映されている」が2.9%、「まあまあ反映されている」が31.8%で合わせて34.7%、「あまり反映されていない」が14.9%「全く反映されていない」が2.9%で合わせて17.8%である一方、「わからない」が43.0%にも及んでいます。

性別でみると「十分に反映されている」と「まあまあ反映されている」の合計は、男性41.9%、女性28.7%と、女性が13.2ポイント低くなっています。また「あまり反映されていない」と「全く反映されていない」が女性では男性に比べ高くなっています。



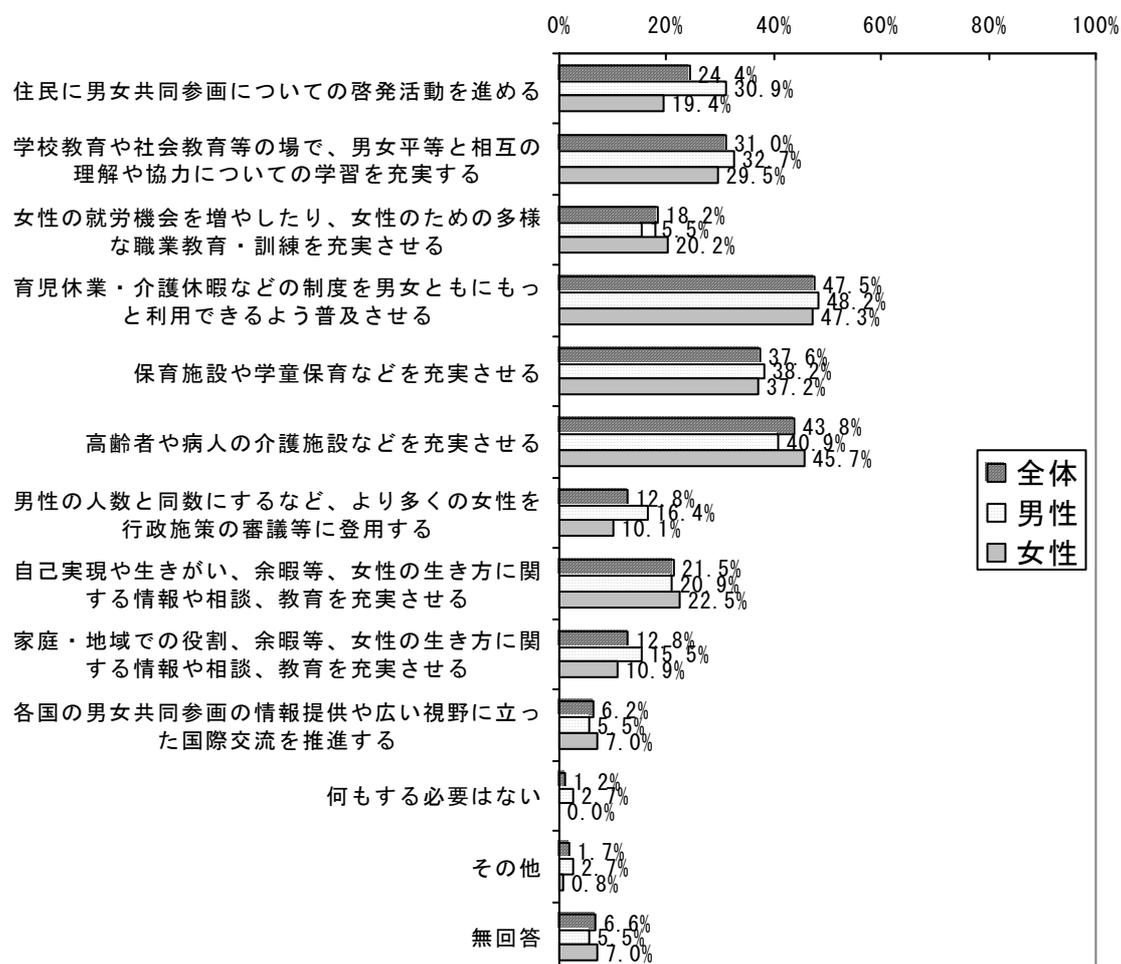
(3) 男女共同参画社会をつくるため行政がすべきこと

問2 男女共同参画社会をつくるために、行政はどのようなことをしたらよいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

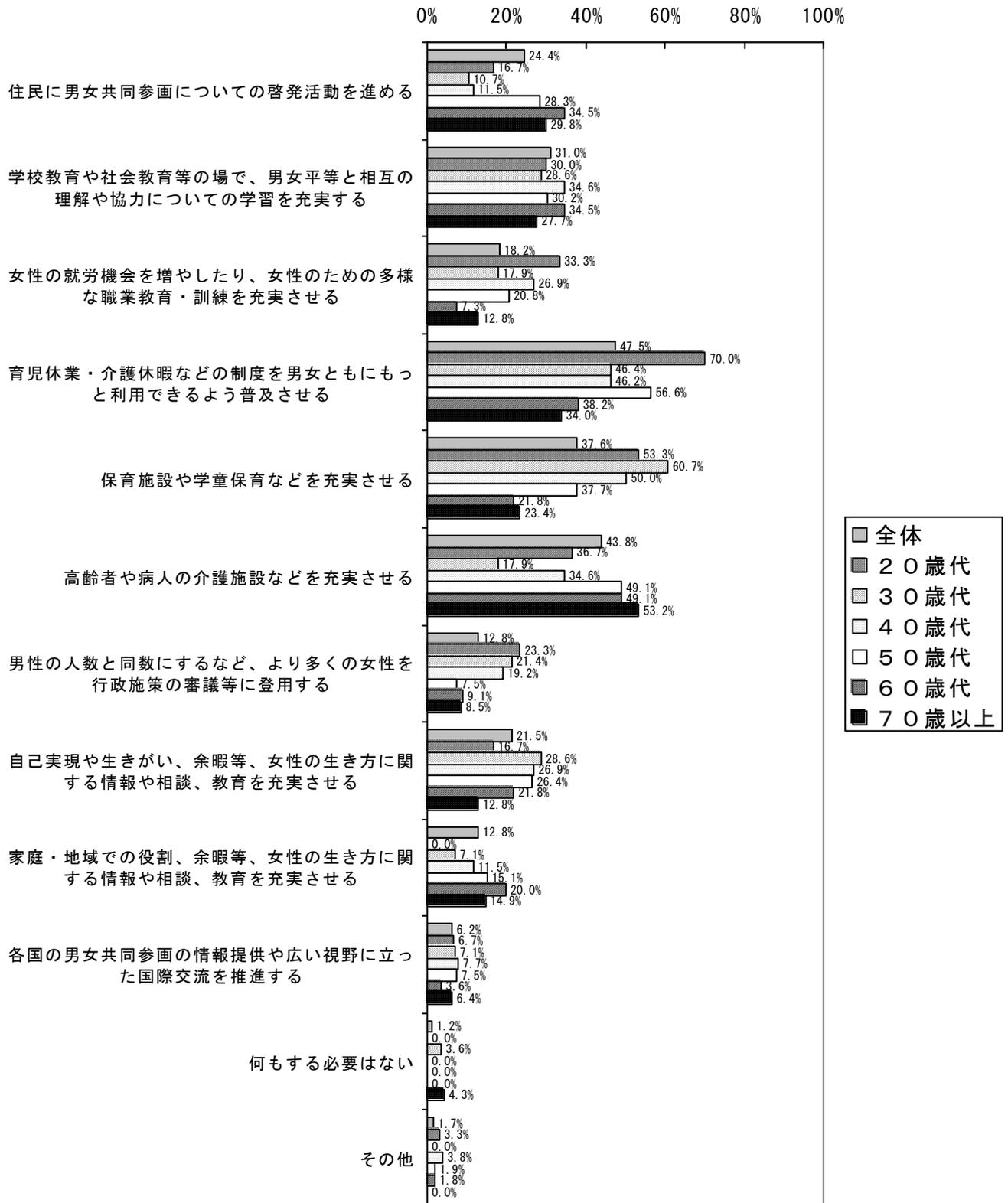
男女共同参画社会をつくるためには行政が育児休業・介護休暇などの制度、介護施設などの充実をすべきとする意見が多く、女性では就労機会の充実を求める意見が多い。

「育児休業・介護休暇などの制度を男女ともにもっと利用できるよう普及させる」が47.5%と最も高く、次いで「高齢者や病人の介護施設を充実させる」43.8%、「保育施設や学童保育などを充実させる」37.6%、「学校教育や社会教育等の場で、男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」31.0%などの順となっています。

性別でみると「住民に男女共同参画についての啓発活動を進める」は男性30.9%、女性19.4%と男性が11.5ポイント高くなっています。一方、「高齢者や病人の介護施設などを充実させる」は男性40.9%、女性45.7%と女性が4.8ポイント高くなっています。また「女性の就業機会を増やしたり、女性のための多様な職業教育・訓練を充実させる」についても男性15.5%、女性20.2%と女性が4.7ポイント高くなっています。



年齢別にみると「育児休業・介護休暇などの制度を男女ともにもっと利用できるよう普及させる」は年齢層が低いほど高くなる傾向がみられます。一方、「高齢者や病人の介護施設などを充実させる」は年齢層が高くなるほど高い傾向がみられます。また「保育施設や学童保育などを充実させる」は30歳代を頂点と山型のグラフとなっています。



※ 無回答を除き掲載

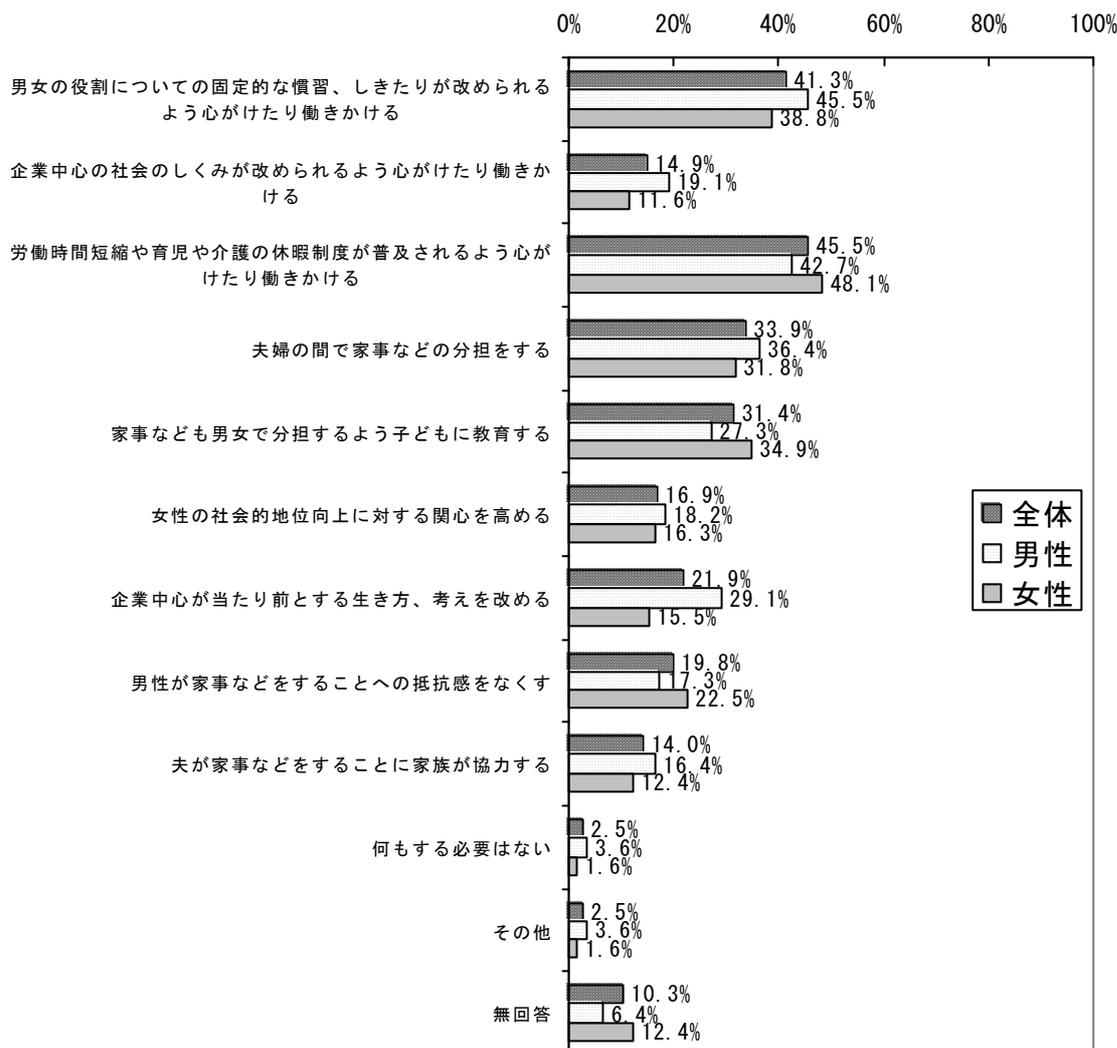
(4) 男女共同参画社会をつくるために自分や企業がすべきこと

問23 あなたや企業はどのようなことをしたらよいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

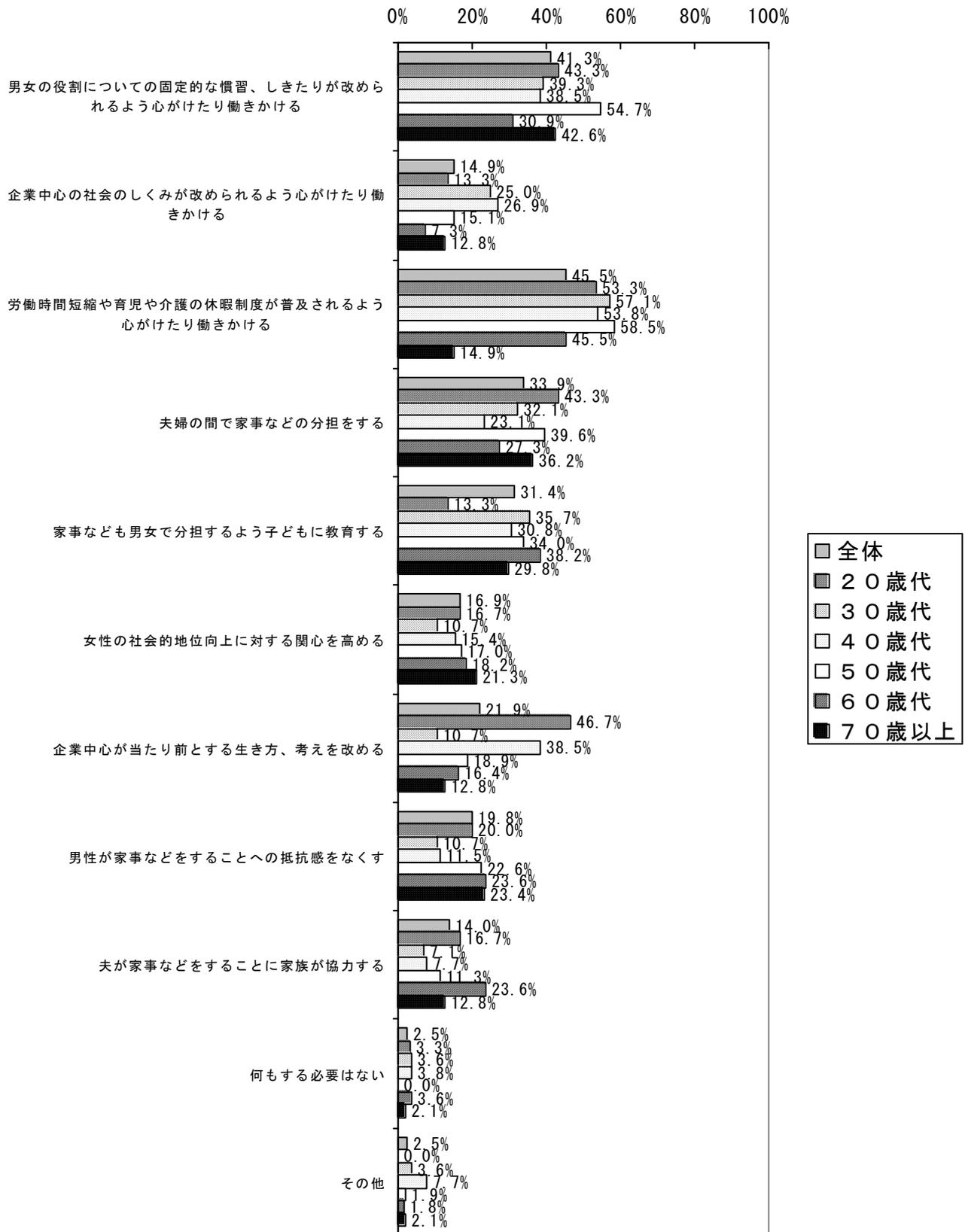
男女共同参画社会をつくるために自分や企業がすることとしては、労働時間短縮や育児や介護の休暇制度が普及されるよう心がけることや、男女の役割分担について固定的な慣習、しきたりが改められるよう心がけや働きかけることが必要との意見が多い。

「労働時間短縮や育児や介護の休暇制度が普及されるよう心がけたり働きかける」が45.5%と最も高く、次いで「男女の役割についての固定的な慣習、しきたりが改められるよう心がけたり働きかける」41.3%、「夫婦の間で家事などの分担をする」33.9%、「家事なども男女で分担するよう子どもに教育する」31.4%、「企業中心が当たり前とする生き方、考えを改める」21.9%などの順になっています。

性別でみると「企業中心が当たり前とする生き方、考えを改める」が男性29.1%に対し、女性15.5%と男性が13.6ポイント高くなっています。



年齢別にみると「労働時間短縮や育児や介護の休暇制度が普及されるよう心がけたり働きかける」は50歳代58.5%で年齢層が低くなるほど高くなる傾向が見られます。「企業中心が当たり前とする生き方、考えを改める」と「夫婦の間で家事などの分担をする」は20歳代で高くなっています。



※ 無回答を除き掲載

6 自由意見

宇治田原町の男女共同参画のためのまちづくりについて自由記述欄に記載を求めたところ、29件の記入がありました。

年齢	性別	記述内容
20歳代	男性	余計なことに税金を使わないでほしい。
20歳代	女性	女性が中心にならなければ簡単には解決できないことやと思います。年長者と若者の交流の場を！！
30歳代	男性	宇治田原町には、まだまだ「男社会」の風土が残っていると思います。（身近にいる「子どもを持つお父さん」が典型的な「昔の親父」っぽい人ばかり）そういう人たちの意識を変えるには「習うより慣れろ」つまり、どんどん共働き家庭を増やすべきだと思います。ただ、そのために地方自治体（特に市町村）ができることは少ないように感じています。
30歳代	男性	男と女は違うものなので男女平等は必要ないと思う。権利は平等であるべきだと思う。
30歳代	男性	・託児所付きの職場を増やす。 ・大型ショッピングモールができてほしい。
30歳代	男性	こんな事がおこなわれていると知らなかった？
30歳代	女性	男女共同参画とは、どういったものか。何を指すのかななどを住民に明確にする。家庭の状況などは個々別々なので、男女共同参画はなかなか難しいとは思いますが、アンケートなどもっとたくさんの人に協力してもらい、町民の状況を、だいたいでいいので把握していけばいいと思う。
30歳代	女性	まず、男女共同参画を全体的にアピールした方がよいと思う。アンケートを出して何がどうなるのかが、まったくわからない。後、町内に子供を遊ばせる所（屋内屋外）で男性でも子供を連れ出して面倒みやすい場があればいいと思う。男性が子育てを積極的に行うことができれば男女共同はしやすい。
30歳代	女性	子供の緊急あずかりがあると助かります。
40歳代	男性	女性に対する制度等を考えるよりも、男性に対して家事、育児等の障害になっている要因を取り除くための動きをすべきではないかと思う。別にいやだからしていないのではなく、結果としてその様な社会のしくみになっていないためにできない（時間がないなどで）状況になっていると思う。
40歳代	女性	すごく遅れているのでもっともっと住みよい町づくりの為のとりくみをして欲しい。
50歳代	男性	男女平等がうたわれているが、実情はそうになっていない。社会の仕組みそのものを女性が活躍できるようなものに改めていく必要がある。労働条件や家庭生活においても女性が社会的に自立できるような基盤整備が必要となる。

年齢	性別	記述内容
50歳代	男性	問13、設問が無理すぎ 何を求めているの？ 問16、17、18、設問ナンセンスです。問22、23どうして3つとするのですか？愛するまち‘うじたわら’がすばらしいまちとなるよう心からお願いします。日頃のがんばっておられる町政には、敬意と感謝をしています。うじたわら町、サイコウです！！
50歳代	男性	すぐ研修をしたりとか啓発活動をしたりとかやったら男女共同参画のまちづくりに有効と考える人もいるが、こんなことではだめである。要するに「やっている」ということを強調しているだけで実効性は何も伴わない。法律の整備や施設整備などを充実していくべきである。
50歳代	女性	保育所の新設。今は詰め込みすぎているので小学校区に1つずつこどもがゆったりとすごせる預けやすい保育所が必要だと思う。
60歳代	男性	男女ともにあまり他人の目も気にせず、又昔からのしきたりにこだわらずに行動してゆく事。
60歳代	男性	日本には日本の数千年にわたる固有の文化があり国民のDNAに入力されている。戦後わずか60年の短期間に文化の違う外国文化を導入しようとする所に無理がある。
60歳代	男性	アンケートについて：設問の主旨とモニター回答者（年齢）の回答本意にギャップを感じる。設問の主旨に基づき、回答者（年齢）を限定するなり細分化した方が良い。男女共同参画によるまちづくりについて：男女共同参画という狭義の意味にこだわりすぎではないか。男女が自由に発言・発想できる土壌が一番大切ではないか？
60歳代	男性	男女平等に対する意識は、その役割に応じて受け入れられつつあると思います。
60歳代	男性	まちづくりについての意見ではありません。問22に対してよく理解出来ないもので私の電子辞書では参画とは計画（の立案）に加わる事と意味が表示されました。私は男女共同参画のまちづくりによる目的や意味を明記していただければ有り難いです。特に問22、23に対しては私には判断できませんでした。
60歳代	女性	高齢化に伴い、作らなくなった田、畑、山林など目立って多くなっています。それらを放置することは町全体の発展に歯止めをかけていると思われれます。今後はそれらを友好、活用し、田原町の発展をのぞみます。
60歳代	女性	私などは年寄りでも男女平等と言われてもおこがましいですが、子供などは少々は今風で家事分担など適当にやっているみたいです。
60歳代	女性	宇治田原町の古い地域に引っ越してきて、新旧の隔たりが多く見られ（あたりまえの事ですが）その輪の中に参加したりするのに少ししんどい事があります。気楽にどんな事でも参加できるようにやって頂いていますが地域住民の隔たりがなくなるような共同参画まちづくりにして欲しいです。
60歳代	女性	子供を安心して育てる町が良い年よりばかりだと町がさみしい気がする。保育所、住宅があれば、仕事は町以外に出ても良いが、安い住宅があれば良い。友人が子供を育てられたら宇治田原に住みたいと云っている。
70歳以上	男性	土地の人、他からの転入された方の生き方、考え方がそれぞれ異なる。いかにマッチング出来るかむずかしい問題だ。頑張ってください。

年齢	性別	記述内容
70歳以上	女性	年令的に家事その他において、長時間身体が持続できません。又昔人間ですから、何事にも理解しにくい事、多々あります。時々、今日も命があったと思う喜び又同年代が亡くなられた時は悲しい事が度重なると不安となってきます。
70歳以上	女性	町と社協と教育委員会、JA等、横のつながり連絡をして色々な事業の日程の調整をお願い致します。今年、農業祭とことぶき大学が午後が同じでした。
70歳以上	女性	90才の老人には、わかりません。アンケートはやめて下さい。

Ⅲ アンケート用紙

男女共同参画社会に関する アンケート 【ご協力をお願い】

平素は、宇治田原町の町政にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

平成13年度に策定した「いきいきさわやかプラン 宇治田原町女性行動計画」の計画年度が平成22年度で終了することから、本計画の改定とあわせて、男女共同参画社会の実現にむけて、「宇治田原町男女共同参画計画」の策定作業を実施しているところです。

そこで、住民の皆様方にアンケートをさせていただき、男女平等に関する意識や実態などをお伺いし、その結果を当計画に反映させていきたいと考えています。

なお、このアンケートの対象者は、町内にお住まいの20歳以上の方の中から、500人を無作為に抽出させていただいています。

回答は、無記名ですので、個人が特定されることはありません。
また、結果は本計画策定にのみ使用し、他の目的に使用することはありません。

ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成21年12月

宇治田原町長 奥田光治

回答用紙の記入にあたってのお願い

1. このアンケートの回答は、封筒の宛名ご本人にお願いします。
2. 「その他（ ）」にあてはまる場合は、その具体的な内容を（ ）内にご記入ください。
3. ご記入が終わられましたら、同封の返信用封筒に入れて1月15日（金）までにポストにご投函ください。

■本アンケートに関するお問い合わせ先■

宇治田原町役場 行革・計画推進室

TEL 88-6615

FAX 88-3231

I. あなたご自身のことについておたずねします

問1 あなたの性別は。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2 あなたの年齢は。

- | | | |
|---------|---------|----------|
| 1. 20歳代 | 2. 30歳代 | 3. 40歳代 |
| 4. 50歳代 | 5. 60歳代 | 6. 70歳以上 |

問3 あなたのお住まいはどちらですか。

- | | | | |
|--------|---------|---------|-------|
| 1. 高尾 | 2. 郷之口 | 3. 銘城台 | 4. 荒木 |
| 5. 南 | 6. 岩山 | 7. 禅定寺 | 8. 立川 |
| 9. 湯屋谷 | 10. 奥山田 | 11. 緑苑坂 | |

問4 あなたは結婚されていますか。

- | | |
|----------------------|------------|
| 1. 結婚している | 2. 結婚していない |
| 3. 結婚していないが異性と同居している | 4. 離別、死別 |

問5 あなたと一緒に暮らしているご家族は。

- | | |
|-----------------|----------|
| 1. 単身世帯（ひとり暮らし） | 2. 一世代世帯 |
| 3. 二世帯世帯 | 4. 三世帯世帯 |
| 5. その他の世帯（ ） | |

問6 あなたの職業は。

（2つ以上の職業をおもちの場合は、主たる職業を1つだけ選んでください。なお、
出産・育児・介護などで休暇中の場合は、働いているものとして回答してください。）

- | | | | |
|-----------------|--------|---------|--------|
| 1. 会社員 | 2. 公務員 | 3. 農林業 | 4. 自営業 |
| 5. パート・アルバイト・内職 | 6. 学生 | 7. 家事専業 | |
| 8. 無職 | 9. その他 | | |

問7 （結婚されている方におたずねします。）

あなたのご夫婦は共働きをしていますか。

- | | |
|---------|----------|
| 1. している | 2. していない |
|---------|----------|

Ⅱ. 男女平等に関する意識についておたずねします

問8 男女平等は憲法で保障されていますが、現在、日本の社会において男女の地位は、どの程度平等になっていると思いますか。それぞれの項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。

項 目	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	女性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	わからない
①家庭生活(家事・育児・介護面など)では	1	2	3	4	5	6
②職場では	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
④地域活動の場(自治会・ボランティア活動など)では	1	2	3	4	5	6
⑤政治や行政の政策・方針決定の場では	1	2	3	4	5	6
⑥法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念や慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体では	1	2	3	4	5	6

Ⅲ. 結婚や職業など生活全般についておたずねします

問9 あなたは結婚についてどのようにお考えですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

1. 結婚すべきである	2. 結婚したほうがよい
3. 結婚しないほうがよい	4. その他 ()

問10 日本では晩婚化が進んでいますが、晩婚化の理由について、あなたはどのような
お考えですか。あてはまるものを2つまで選んでください。

1. 独身生活のほうが自由である
2. 結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなった
3. 仕事のためには独身のほうが都合がよい
4. 仕事をもつ女性が増えて、女性の経済力が向上した
5. 家事・育児に対する負担感・拘束感が大きい
6. 相手に高望みをしている
7. 社会慣行として見合いが減少した
8. 親離れができていない
9. 兄弟姉妹の数が減ったことや一人っ子が増えたため
10. その他 ()

問11 あなたは離婚についてどのようにお考えですか。あてはまるものを1つだけ選んで
ください。

1. なるべくなら我慢して離婚しないほうがよい
2. 離婚するなら子どもが成長するのを待ってからすべきである
3. 離婚を考えるほどの問題があれば離婚すべきである
4. わからない

問12 (現在企業や団体などで就労している方におたずねします。)

あなたの職業・職場について、あてはまるものをすべて選んでください。

- | | |
|-------------------------------------|----------------------|
| 1. 就職活動時に男女の不平等を感じた | 2. 職務内容に男女の不平等を感じる |
| 3. 給与や昇進に男女の不平等を感じる | 4. 研修機会などに男女の不平等を感じる |
| 5. 女性の意見や価値観が尊重されない | |
| 6. 性別のために上司や取引先などから信頼されないことがある | |
| 7. 結婚したり、子どもが生まれたりすると勤めにくい | |
| 8. セクシュアル・ハラスメント※(セクハラ)の被害にあったことがある | |
| 9. 身近にセクハラがあるのを知っている | |
| 10. その他 (|) |

※セクシュアル・ハラスメント・・・職場や教育現場などで行われる一方的な性的要求、性的ないやがらせや脅迫などの言動。男性側の逆セクシュアル・ハラスメントも含むものとして考えてください。

問13 (結婚されている方※におたずねします。※婚姻はしていないが異性と同居している方も含みます。)

結婚・出産後のあなたの就労・退職について満足していますか。

あてはまるものを1つだけ選んでください。

(男性も、自分の結婚後、配偶者の出産後の自分自身のことをお答えください。)

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1. 満足 | 2. 退職せずに働きたかった |
| 3. 退職せずに育児休暇をとりたかった | 4. もっと長く育児休暇をとりたかった |
| 5. もっと長期間働きたかった | |
| 6. もっと家庭生活を優先しながら働きたかった | |
| 7. 退職して家庭や育児に専念したかった | |
| 8. その他 (|) |

問14 女性が職業（収入のある仕事）をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

1. 職業をもたないほうがよい
2. 結婚するまでは、職業をもつほうがよい
3. 子どもができるまでは、職業をもつほうがよい
4. 子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい
5. 子どもはつくらずに、そのまま職業を続けるほうがよい
6. 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい
7. その他（
8. わからない

問15 （結婚されている方、※におたずねします。※婚姻はしていないが異性と同居している方も含みます。）

あなたの家庭では、次のような家事を、主にだれが分担していますか。それぞれの項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。

項 目	夫	妻	子ども	家族全員	その他の人	わからない
①掃除	1	2	3	4	5	6
②食事のしたく	1	2	3	4	5	6
③食事の後かたづけ、食器洗い	1	2	3	4	5	6
④洗たく	1	2	3	4	5	6
⑤育児（育児のある方のみお答えください）	1	2	3	4	5	6
⑥介護（介護のある方のみお答えください）	1	2	3	4	5	6

IV. 人権についておたずねします

問16 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）が問題になっていますが

経験したり、見聞きしたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 自分自身がセクハラを受けたことがある。
2. 自分自身がセクハラと思える行為を相手にしたことがある。
3. 身近にセクハラを受けたことがある人を知っている
4. テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
5. 見聞きしたことはない
6. そういう言葉は聞いたことがない

問17 あなたはセクハラが起こる主な理由は何だと思えますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

1. 加害者だけでなく、セクハラを許すような社会の雰囲気の問題がある
2. 被害者にセクハラを受ける原因があるからだ
3. 女性を「女の子」扱いし、一人前の社会人とみなさないからだ
4. 男性優位の意識があるからだ
5. 根強い男女の役割分担意識があるからだ
6. その他（)

問18 女性が夫、恋人などから受ける身体的・心理的な暴力(ドメスティック・バイオレンス)が問題となっていますが、あなたは、夫婦や恋人などとの間での暴力について経験したり見聞きしたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 自分自身がドメスティック・バイオレンスを受けたことがある。
2. 自分自身がドメスティック・バイオレンスと思える行為を相手にしたことがある。
3. 身近にドメスティック・バイオレンスを受けたことがある人を知っている
4. テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
5. 見聞きしたことはない
6. そういう言葉は聞いたことがない

問19 女性に対する暴力や性犯罪、売買春、セクハラなどから人権を守るために何が必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 犯罪の取り締まりを強化する
2. 法律・制度の制定や見直しをする
3. 相談機関や保護施設を整備する
4. 家庭における男女平等や性についての教育を充実させる
5. 学校における男女平等や性についての教育を充実させる
6. テレビや出版物などのメディアにおいて、性や暴力表現にもっと配慮する
7. その他（

V. 男女共同参画のまちづくりについておたずねします

問20 府や町から審議会などの委員に就任してほしいと依頼されたらどうしますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

1. 積極的に就任する
2. 時間などに余裕があれば就任する
3. 知識や能力がある分野なら就任する
4. 断る

問21 宇治田原町のまちづくりや行政には、女性の意見が反映されていると思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

1. 十分反映されている
2. まあまあ反映されている
3. あまり反映されていない
4. 全く反映されていない
5. わからない

問22 男女共同参画社会をつくるために、行政はどのようなことをしたらよいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

1. 住民に男女共同参画についての啓発活動を進める
2. 学校教育や社会教育等の場で、男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
3. 女性の就労機会を増やしたり、女性のための多様な職業教育・訓練を充実させる
4. 育児休業・介護休暇などの制度を男女ともにもっと利用できるよう普及させる
5. 保育施設や学童保育などを充実させる
6. 高齢者や病人の介護施設などを充実させる
7. 男性の人数と同数にするなど、より多くの女性を行政施策の審議等に登用する
8. 自己実現や生きがい、余暇等、女性の生き方に関する情報や相談、教育を充実させる

9. 家庭・地域での役割、余暇等、女性の生き方に関する情報や相談、教育を充実させる
10. 各国の男女共同参画の情報提供や広い視野に立った国際交流を推進する
11. 何もする必要はない
12. その他（)

問23 では、あなたや企業はどのようなことをしたらよいと思いますか。

あてはまるものを3つまで選んでください。

1. 男女の役割についての固定的な慣習、しきたりが改められるよう心がけたり働きかける
2. 企業中心の社会のしくみが改められるよう心がけたり働きかける
3. 労働時間短縮や育児や介護の休暇制度が普及されるよう心がけたり働きかける
4. 夫婦の間で家事などの分担をする
5. 家事なども男女で分担するよう子どもに教育する
6. 女性の社会的地位向上に対する関心を高める
7. 企業中心が当たり前とする生き方、考えを改める
8. 男性が家事などをする事への抵抗感をなくす
9. 夫が家事などをする事に家族が協力する
10. 何もする必要はない
11. その他（)

問24 最後に、宇治田原町の男女共同参画のためのまちづくりについてご意見がありましたら、ご自由にお書きください

.....

.....

.....

.....

.....

.....

ご協力ありがとうございました。

宇治田原町男女共同参画計画策定にかかるアンケート報告書

平成22年2月発行

宇治田原町行革・計画推進室

〒610-0289 京都府綴喜郡宇治田原町大字荒木小字西出10番地

TEL:0774-88-6615 (直通)

<http://www.town.ujitawara.kyoto.jp>

